教員名	室城　隆之(T-0203)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	司法・犯罪心理学/犯罪心理学				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	心2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	司法・犯罪分野の心理学理論と心理学的支援について学ぶ						
授業の概要	この授業では，司法・犯罪分野の心理に関する支援について，基本的な理論と実践に関する知識を修得する。最初に，犯罪の原因に関する生物学的，社会学的，心理学的諸理論について学習する。次に，犯罪者の捜査，司法手続き，処遇，立ち直りという一連のプロセスにおいて心理学が果たす役割と心理的支援，また，犯罪被害者への支援や犯罪の予防について学ぶ。さらに，家庭裁判所で扱われる家事事件とそれに対する心理的支援についても学ぶ。最後に，各種犯罪の特徴についても考察する。 この授業は，基本的には講義形式で実施するが，視聴覚教材も使用する。また，リアクションペーパーを用いた双方向的な学習ができるようにする。 なお，資料の配付，課題の提出等では，Google Classroom を使用する。						
到達目標	この科目は，社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連するとともに，人間心理学科の「心理学，臨床心理学，カウンセリング等に関しての教育・研究を深め，専門知識と実践力を有し，真の人間を理解することができる」というディプロマ・ポリシーに関連する。 具体的な到達目標は，以下のとおりである。 （1）犯罪・非行，犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につける。 （2）司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	司法・犯罪心理学とは何か～対象と方法，研究と倫理 予習:テキストを読み、犯罪心理学の対象と方法および倫理について調べておく(100分)。 復習:犯罪心理学の研究対象、方法、研究における倫理をについて説明できる(100分)。
第2回	犯罪の原因（1） 生物学的要因 予習:テキストを読み、犯罪心理学の生物学的要因について調べておく(100分)。 復習:生物学的要因についての研究史、新しい生物学的理論について説明できる(100分)。
第3回	犯罪の原因（2） 社会学的要因 予習:テキストを読み、犯罪心理学の社会学的要因について調べておく(100分)。 復習:社会学的要因について、3つの理論とその代表的な研究者およびその理論について説明できる(100分)。
第4回	犯罪の原因（3） 心理学的要因，環境との相互作用，犯罪原因の統合的理解 予習:テキストを読み、犯罪心理学の心理学的要因について調べておく(100分)。 復習:心理学的要因について、代表的な研究者およびその理論について説明できる。犯罪原因の統合的理解モデルについて説明できる(100分)。
第5回	犯罪捜査と心理学 予習:テキストを読み、犯罪者プロファイリング、虚偽検出、目撃証言について調べておく(100分)。 復習:犯罪者プロファイリングの歴史と方法、虚偽検出の方法、目撃証言に関する様々な実験について説明できる(100分)。
第6回	非行・犯罪に対する司法手続き～アセスメントを中心に 予習:テキストを読み、非行・犯罪者に対するアセスメントについて調べておく(100分)。 復習:非行・犯罪者に対するアセスメントについて、司法プロセスの流れとともに説明できる(100分)。
第7回	非行・犯罪者の処遇・矯正 予習:非行・犯罪者の処遇について調べておく(100分)。 復習:非行・犯罪者の処遇について、司法プロセスの流れとともに説明できる(100分)。
第8回	家事事件と心理的支援 予習:家庭裁判所における家事事件について調べておく(100分)。 復習:家庭裁判所の家事事件における家庭裁判所調査官による心理的支援について説明できる(100分)。
第9回	犯罪者の立ち直り 予習:テキストを読み、犯罪からの立ち直りについて調べておく(100分)。 復習:犯罪者に対する新しい処遇、犯罪者の立ち直りに関する諸理論について説明できる(100分)。
第10回	犯罪各論（1） 暴力犯罪，殺人 予習:参考書などで、暴力犯罪，殺人について調べておく(100分)。 復習:暴力犯罪の種類，暴力犯罪や殺人を起こす加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。
第11回	犯罪各論（2） 性犯罪，放火

	予習:参考書などで、性犯罪、放火について調べておく(100分)。 復習:性犯罪、放火の種類と加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。
第12回	犯罪各論（３） 窃盗等の財産犯，その他の犯罪 予習:参考書などで、窃盗等の財産犯について調べておく(100分)。 復習:財産犯の種類と加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。
第13回	犯罪各論（４） 少年非行 予習:少年非行について調べておく(100分)。 復習:代表的な少年非行と加害者の心理的特徴について説明できる(100分)。
第14回	被害者支援と犯罪予防 まとめ～司法・犯罪心理学の課題 予習:被害者支援の内容および司法・犯罪心理学の課題について調べ、自分の考えをまとめておく(100分)。 復習:被害者支援の内容について説明できる。これまでの講義内容を振り返る(100分)。

成績評価方法・基準	到達目標（１）「犯罪・非行，犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につける」及び「（２）司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ」について，毎回の講義終了時に提出するリアクション・ペーパー（45％）と定期試験（55％）を合計して評価する。

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『コンパクト司法・犯罪心理学』	河野荘子・岡本英生	北大路書房	978-4-7628-3123-2	
参考書	『犯罪心理学－犯罪の原因をどこに求めるのか』　大渕憲一　培風館 『Progress & Application 犯罪心理学』　越智啓太　サイエンス社			
その他	授業内容に関する質問は，毎回提出するリアクション・ペーパーに記載すること。それ以外の連絡は，tmuroki@edogawa-u.ac.jpにメールをすること。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	家庭裁判所調査官として勤務。２８年間，非行臨床（アセスメント，心理教育，カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	室城　隆之(T-0203)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	カウンセリング概論				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	心2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	カウンセラーとクライエントの交流の場としてのカウンセリングを学ぶ						
授業の概要	この科目は、臨床心理学の実践としてのカウンセリングについて、その基礎となる諸理論を体系的に学ぶことを目的とする。また、カウンセリング理論の１つである交流分析理論について詳細に学ぶことによって、理論を実際に活用することができるようになることを目標とする。パワーポイントを用いた講義が中心となるが、演習を用いた体験的な学習や、リアクションペーパーを用いた双方向的な学習ができるようにする。なお、毎回の講義開始時に資料を配布する。 この科目では、資料の配付，課題の提出等では Google Classroom を使用する。						
到達目標	この科目は、社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連するとともに，人間心理学科のディプロマポリシーである「心理学及びカウンセリングの手法の修得ができる。」および「心理学、臨床心理学、カウンセリング等に関しての教育・研究を深め、専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することができる。」に関連しており、以下を到達目標とする。 1．カウンセリングの構造、理論を概説できる。 2．カウンセリングの理論の１つである交流分析の理論および技法について概説し、活用できる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	カウンセリングとは何か 予習:カウンセリングとは何かについて調べ、自分の見解を持つ。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングの定義、目標、特徴、カウンセリングのものの見方を説明できる。(100分)
第2回	カウンセリングの構造と基本的な技法 予習:カウンセリングの構造と基本的な技法について調べておく。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングの構造、基本的な技法を説明できるようにする。(100分)
第3回	カウンセリングのプロセスと技法 (1) カウンセリングのプロセスと面接初期の技法 予習:カウンセリングの流れ(プロセス)と技法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングのプロセス、技法を説明できるようにする。(100分)
第4回	カウンセリングのプロセスと技法 (2) カウンセリングのプロセスと面接中期・後期の技法 予習:カウンセリングの中期・後期の技法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、カウンセリングの中期・後期の技法を説明できるようにする。(100分)
第5回	精神分析療法のカウンセリング 予習:精神分析療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、精神分析療法と精神分析療法のカウンセリングの違いを説明できるようにする。(100分)
第6回	認知・行動療法のカウンセリング 予習:認知・行動療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、認知・行動療法のカウンセリングの特徴、技法について説明できるようにする。(100分)
第7回	人間性心理学のカウンセリング 予習:人間性心理学(ヒューマニスティック・アプローチ)について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、人間性心理学のカウンセリングの特徴、種類を説明できるようにする。(100分)
第8回	集団療法・家族療法のカウンセリング 予習:集団療法・家族療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、集団療法・家族療法のカウンセリングの特徴、技法を説明できるようにする。(100分)
第9回	交流分析(1) 自我状態 予習:テキストを読み、交流分析と自我状態について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、交流分析、自我状態について説明できるようにする。(100分)
第10回	交流分析(2) やりとり分析 予習:テキストを読み、やりとり分析について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、様々なやり取りについて説明できるようにする。(100分)
第11回	交流分析(3) 脚本分析 予習:テキストを読み、脚本分析について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、脚本とは何か、どのように形成されるかについて説明できるようにする。(100分)

第12回	交流分析(4) 脚本化された行動(ラケットとゲーム) 予習:テキストを読み、脚本化された行動について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、ラケットとゲームについて説明できるようにする。(100分)
第13回	ゲシュタルト療法 予習:テキストを読み、ゲシュタルト療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、ゲシュタルト療法の特徴、技法について説明できるようにする。(100分)
第14回	再決断療法 予習:テキストを読み、再決断療法について調べてくる。(100分) 復習:配布資料を復習し、再決断療法の特徴、技法について説明できるようにする。(100分)

成績評価方法・基準	カウンセリングの構造、理論および交流分析の理論および技法の理解度を問うための、毎回の講義終了時に提出するリアクションペーパー（45%）およびカウンセリングの構造、理論の理解度および交流分析の理論および技法を活用できるかを問う最終レポート（55%）によって評価する。リアクションペーパーについては、毎回、次の講義の際に講評する。

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「生きづらさを手放す」－自分らしさを取り戻す再決断	室城隆之	春秋社	978-4-393-36551-9	

参考書	「はじめてのカウンセリング入門(上)」－カウンセリングとは何か 諸富祥彦著 誠信書房 978-4-414-40368-8 「はじめてのカウンセリング入門(下)」－ほんものの傾聴を学ぶ 諸富祥彦著 誠信書房 978-4-414-40369-5
その他	・本科目は公認心理師の受験資格にはなっていないが、公認心理師を目指す学生は受講することを推奨する。 ・授業内容に関する質問は，毎回提出するリアクション・ペーパーに記載すること。それ以外の連絡は，tmuroki@edogawa-u.ac.jpにメールをすること。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	家庭裁判所調査官として勤務。２８年間，非行臨床（アセスメント，心理教育，カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／人間心理学科(1)／人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	室城　隆之(T-0203)、倉田　由美子(T-1004)、尾花　真梨子(D-0802)、堀内　美穂子(D-0104)、山本　隆一郎(D-0205)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	心理学的支援法/心理療法				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	心3群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	心理学的支援の様々なアプローチを学ぶ						
授業の概要	心理学的支援の様々なアプローチを学ぶことを目的として、それぞれのアプローチを専門とする教員のオムニバス形式の講義を行う。 具体的には、以下のような専門的知識を学ぶ。 (1)代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界 (2)訪問による支援や地域支援の意義 (3)良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法 (4)プライバシーへの配慮 (5)心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援 (6)心の健康教育 この科目ではパワーポイントを用いた講義が中心となるが、リアクションペーパーを用いた双方向的な学習ができるようにする。 また，この科目では、資料の配付，課題の提出等では Google Classroom を使用する。						
到達目標	社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連するとともに，人間心理学科の「心理学及びカウンセリングの手法の修得ができる」「心理学，臨床心理学，カウンセリング等に関しての教育・研究を深め，専門知識と実践力を有し，真の人間を理解することができる」というディプロマ・ポリシーに関連する。 具体的な到達目標としては，以下のとおりである。 (1)代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界について理解している。 (2)訪問による支援や地域支援の意義について理解している。 (3)良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について理解している。 (4)プライバシーへの配慮について理解している。 (5)心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援について理解している。 (6)心の健康教育について理解している。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	心理学的支援と歴史的概観 心理学的支援における倫理とプライバシーへの配慮 担当:室城隆之 予習:心理学的支援の歴史と倫理について調べておく。(100分) 復習:心理学的支援の歴史および心理学的支援における倫理とプライバシーへの配慮について説明できる。(100分)
第2回	良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法 担当:山本隆一郎 予習：「かかわり行動」や「基本的傾聴」について調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、「かかわり行動」や「基本的傾聴」、心理学的支援におけるこれらの意義について説明できる（100分）。
第3回	精神分析・精神力動的心理療法 担当:室城隆之 予習:精神分析について調べておく。(100分) 復習:精神分析と精神力動的心理療法の違い、精神力動的心理療法の特徴について説明できる。(100分)
第4回	行動療法と行動分析 担当:倉田由美子 予習：「学習理論（行動理論）」とは何か調べておく。(100分) 復習：授業内容を振り返り、行動療法の概要（人物、主要な技法）を説明できる（100分）。
第5回	認知療法・認知行動療法 担当:倉田由美子 予習：「自動思考」「ソクラテス問答」「不合理な信念」について調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、認知行動療法の概要（人物、主要な技法）を説明できる（100分）。
第6回	パーソンセンタード・アプローチ，ヒューマニスティック・アプローチ 担当:室城隆之 予習:ロジャーズの来談者中心療法について調べておく。(100分) 復習:ロジャースの来談者中心療法とパーソンセンタード・アプローチへの発展，その他のヒューマニスティック・アプローチの特徴について説明できる。(100分)
第7回	集団療法・家族療法 担当:室城隆之 予習:集団療法および家族療法について調べておく。(100分) 復習:集団療法の特徴と技法、家族療法の特徴と技法について説明できる。(100分)
第8回	子どもの心理療法（プレイセラピィ，描画，箱庭） 担当:尾花真梨子

	予習：子どもを対象とした心理療法について調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、「プレイセラピー」「箱庭療法」「描画療法」について説明できる（100分）。
第9回	カウンセリング・発達支援 担当:尾花真梨子 予習：障害児・者および家族に対する支援について調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、「発達相談」「ペアレント・トレーニング」について説明できる（100分）。
第10回	森田療法，動作法，芸術療法，その他のアプローチ 担当:倉田由美子 予習：芸術療法にはどのようなものがあるか調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、日本の心理療法、芸術療法の概要を説明できる(100分)。
第11回	心理学的支援の選択と効果 担当:山本隆一郎 予習：エビデンスレベルやコクラン（コクラン共同計画）について調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、実証に基づく支援とそれに基づく心理学的支援の選択について説明できる（100分）。
第12回	訪問支援，地域支援 担当:堀内美穂子 予習：アウトリーチ,リエゾン，コンサルテーション，地域包括ケアとは何か，各用語の意味と内容について調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り，訪問支援や地域支援において，どのような領域でどういった職種により連携が図られるか，またその意義について説明できるようにする（100分）。
第13回	コミュニティ・アプローチと支援者支援 担当:堀内美穂子 予習：コミュニティ・アプローチとは何か。定義と発展の歴史的経緯について調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、コミュニティアプローチが担う役割と支援の対象，心理専門職のアプローチの手法と介入レベルについて説明できるようにする（100分）。
第14回	心の健康教育，ストレスと心の健康への支援 担当:山本隆一郎 予習：心理教育の目的と対象について調べておく（100分）。 復習：授業内容を振り返り、心理療法の目的と対象、ストレスマネジメント教育について実例を踏まえて説明できる（100分）。

成績評価方法・基準	代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育についての理解度をみるために、毎回の講義で実施する小テストの合計点で100%評価する。

参考書	公認心理師標準テキスト心理学的支援法 杉原保史ほか 北大路書房
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	室城隆之 1,3,6,7回担当 家庭裁判所調査官として勤務。２８年間，非行臨床（アセスメント，心理教育，カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事 堀内美穂子 12,13回担当 産能大学メンタルマネジメント相談室においてインテーカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／人間心理学科(1)／人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	室城　隆之(T-0203)、浅岡　章一(D-0201)、蔺　理津子(T-0204)、大和田智文(D-1201)、中村　真(T-1001)、西村　律子(D-0703)、野田　満(D-0304)、福田　一彦(T-1003)、山本　隆一郎(D-0205)			履修開始年次	4年	単位※1	4単位
年度	2021年度	科目名	心理実習				
学期※2	2021年度前期、2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	心3群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	5分野の施設実習等を通じて、心理的支援，他職種連携，地域連携，チームアプローチ，職業倫理と法的義務について体験的に学習する。						
授業の概要	この授業では，保健医療，福祉，教育，司法・犯罪，産業・労働の5分野における心理に関する支援について，事前学習（35時間），施設実習（50時間以上），事後学習（35時間）を通じて学習する。実習時間は合計120時間以上となり，公認心理師法施行規則第１条の２に定める80時間以上という条件を満たしている。 事前学習では，実習の進め方，実習記録ノートの書き方，実習の心構え，心理師としての職業倫理および法的義務，各分野における実習施設の位置づけや施設の役割などを講義および学生による調べ学習，プレゼンテーション，質疑応答等を通して学習する。 施設実習では５分野の施設において実習を行い，各施設における心理的支援，他職種連携，地域連携，チームアプローチ，職業倫理と法的義務について体験的に学習する。 事後学習では，実習体験の振り返りと追加学習，実習報告を行う。 なお，時間割上は通年で水曜日３，４時限に位置づけられているが，施設実習は，時間割外および夏季休業中に行われる。また，施設実習においては，実習指導教員が引率，または1週間に1回以上施設を訪問する形で巡回指導を行う。 この科目では，資料の配付，課題の提出等では Google Classroom を使用し、事前指導・事後指導のオンライン授業実施時の講義には Google Meet を使用する。						
到達目標	保健医療，福祉，教育，司法・犯罪，産業・労働の5分野における心理に関する支援を実施する施設での実習および事前学習・事後学習を通して，以下の事項について修得する。 （ア）各分野における心理に関する支援の内容について理解する （イ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて理解する （ウ）多職種連携及び地域連携のあり方を理解する （エ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解する なお，この科目は社会学部の「知識と体験を基に，批判的かつ洞察的に思考し判断することができる。」，「自己の意見を適切に表現し，他者に配慮をしながら積極的にコミュニケーションできる。」，「現代の社会における諸課題の解決をはかりながら，持続可能な社会の構築に貢献できる。」，「優しさと温かみに満ち、総合的な判断能力を持つことができる」というディプロマ・ポリシー，ならびに，人間心理学科の「心理学及びカウンセリングの手法の修得ができる。」，「心理学、臨床心理学，カウンセリング等に関しての教育・研究を深め，専門知識と実践力を有し，真の人間を理解することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連している。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容

(1) 事前学習（35時間）においては，心理実習の目的と進め方，留意点，実習記録ノートの書き方、実習の心構え，公認心理師としての職業倫理，法的義務，多職種連携・地域連携におけるチームアプローチの意義，保健医療分野，福祉分野，教育分野，司法・犯罪分野，産業・労働分野の各施設における心理的支援に関する事前学習を行う。

学生は，健康・医療心理学、福祉心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、産業・労働心理学などの科目の資料やノートを見直したうえで授業に臨み（予習：100分程度）、授業後は毎回の授業での発表やディスカッション等での体験の振り返りなど（復習：100分程度)が必要である。

(2) 施設実習（50時間）においては，保健医療分野，福祉分野，教育分野，司法・犯罪分野，産業・労働分野の各施設で実習を行い，各施設における心理的支援，他職種連携，地域連携，チームアプローチ，職業倫理と法的義務について体験的に学習する。なお，施設実習は，時間割外および夏季休業中に行われる。

(3) 事後学習（35時間）においては，保健医療分野，福祉分野，教育分野，司法・犯罪分野，）産業・労働分野の施設実習の振り返りを行い，各施設における他職種連携，地域連携，チームアプローチ，公認心理師の職業倫理・法的義務について学習する。また，実習報告会を実施するほか，自己評価課題を作成する。

学生は，事後学習においては、施設実習で体験したこと、学んだことを振り返ったうえで授業に臨み（予習：100分程度）、授業後は毎回の授業での発表やディスカッション等での体験の振り返りなど（復習：100分程度)が必要である。

成績評価方法・基準	成績評価： この授業の成績評価については、 （ア）「心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ」について理解している （イ）「多職種連携及び地域連携」について理解している （ウ）「公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解」について理解している ことを、 ①事前学習における課題（20%） ②実習中における外部評価等を含めた参加態度，及び実習記録ノート等の課題（50%） ③事後学習における振り返り，実習報告，自己評価等の課題（30%） で確認し、評価を行う。
参考書	「シナリオで学ぶ心理専門職の連携・協働：領域別に見る他職種との業務の実際」鶴光代・津川律子　誠信書房 978-4414416381 「心の専門家が出会う法律［新版］：臨床実践のために」金子和夫・津川律子・元永拓郎　誠信書房　978-4414416169
その他	＜履修条件＞ ・１，２，３年時の公認心理師コース指定科目（心理学概論，心理学統計法，神経・生理心理学，発達心理学，人体の構造と機能及び疾病，心理学研究法，臨床心理学概論，心理学実験，公認心理師の職責，知覚・認知心理学，学習・言語心理学，感情・人格心理学，心理的アセスメント，社会・集団・家族心理学，障害者・障害児心理学，心理学的支援法，健康・医療心理学，福祉心理学，教育・学校心理学，司法・犯罪心理学，産業・組織心理学，精神疾患とその治療，心理演習）の単位をすべて修得していること。 ・実習費を支払っていること。

参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	室城隆之：家庭裁判所調査官として勤務。２８年間，非行臨床（アセスメント，心理教育，カウンセリング）及び夫婦・家族臨床に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(3)／社会学部(5)／社会学部(6)／人間心理学科(1)／人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	堀内　美穂子(D-0104)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	精神保健				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	心2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	身体・心理・社会的支援とwell-being						
授業の概要	精神保健の基本的視点や基礎知識を学び，精神保健の意義・課題を考える。また，ライフサイクルの各段階で生じる精神保健の課題を知り，その対処に必要な各種専門機関や支援機関の役割と多職種による連携支援についても概説する。この科目の学びは，社会学部の「現代の社会における諸課題の解決をはかりながら，持続可能な社会の構築に貢献できる」「優しさと温かみに満ち，総合的な判断能力をもつことができる」，人間心理学科の「心理学，臨床心理学，カウンセリング等に関しての教育・研究を含め専門知識と実践力を有し，真の人間を理解することができる」とのディプロマ・ポリシーに基づく。						
到達目標	1. 精神の健康についての基本的考え方と歴史的変換を理解する 2. 現代社会におけるライフサイクルに応じた精神保健の諸課題と，地域の支援体制のしくみを理解する 3. 精神保健の維持・増進のために機能している専門機関と関係職種の活動と多職種の連携について理解し，その知識を活用することで，自らの健康を守り，必要に応じ周囲の人々を支援することができる						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション：精神保健とは何か。精神保健の歴史と課題 予習：「精神保健」とは何か，各自下調べを行う(100分) 復習：精神の健康について基本的考え方を説明できる（100分）
第2回	ライフサイクルからみた精神保健（1）エリクソンの発達課題（出生前，乳幼児期，学童期） 予習：エリクソンのライフサイクルと各段階の課題について調べ，ノートにまとめておく（100分） 復習：出生前から学童期に生じる精神保健の課題とその支援の現状を説明できる(100分)
第3回	ライフサイクルからみた精神保健（2）エリクソンの発達課題（思春期，青年期，成人期，老年期） 予習：思春期や青年期に生じる精神保健的課題について考え，ノートにまとめておく(100分) 復習：思春期や青年期に生じる精神保健の課題と成人期，老年期の課題の概要とその特徴をできる（100分）
第4回	各種健康障害と精神保健 予習：人々が生涯において罹患し，心の健康に影響をあたえる疾患について調べてノートにまとめておく（100分） 復習：各種疾患により生じる精神保健の課題と支援の現状について説明できる（100分）
第5回	精神の健康と支援　および　小テスト 予習：精神の健康とは何か，定義について調べてノートにまとめておく(100分) 復習：精神の健康について，国際的な視点による定義とその実践について説明できる(100分)
第6回	精神保健における家族アプローチ 予習：精神の健康の保持・増進における家族の役割について考え，ノートにまとめておく（100分） 復習：精神保健活動において，家族支援や家族教育がなぜ重要視されるのか，説明できる（100分）
第7回	学校精神保健 予習：就学期において生じる精神保健の課題を3個考え，その概略を調べノートにまとめておく（100分） 復習：就学期において生じる精神保健の課題とその支援体制について説明できる（100分）
第8回	青年期精神保健 予習：青年期において生じる精神保健の課題を３個考え，その概略を調べ，ノートにまとめておく（100分） 復習：青年期において生じる精神保健の課題とその支援体制について説明できる(100分)
第9回	成人期・老年期精神保健 予習：成人期から老年期において生じる精神保健の課題を３個考え，その概略を調べ，ノートにまとめておく（100分） 復習：成人期から老年期において生じる精神保健の課題とその支援体制について説明できる(100分)
第10回	認知症疾患とターミナルケア 予習：認知症疾患の内容とその疾患の特徴を調べておく（100分） 復習：主な認知症疾患について説明し 復習：日本における自殺予防対策と課題について説明できる(100分) 復習：認知症やターミナルケアにおける支援の在り方について，自らの考え方を説明できる（100分）
第11回	障害者の社会参加と精神保健 予習：障害者福祉の視点から，３つの障害種別とは何か調べ，ノートにまとめておくおく（100分） 復習：障害者の社会参加や障害者就労の現状と課題について説明できる（100分）
第12回	アルコールを含む薬物依存をめぐる精神保健の課題 予習：アディクションとは何か調べておく(100分) 復習：アディクション問題に関連した社会的課題について説明できる(100分)
第13回	地域精神保健における災害精神保健と自殺予防対策

	予習：サイコロジカルファーストエイドとは何か、ノートにまとめておく 日本における自殺者の数と動向と特徴をノートにまとめておく（100分） 復習：災害時に生じる精神保健的課題とケアについて，自らの考えを説明できる 日本の自殺者の現状とその特徴について説明できる（100分）
第14回	総括・評価 授業内テストおよび総括 予習：授業の総括を行う（100分） 復習：ノートを整理する（100分）

成績評価方法・基準	授業はオンライン授業で実施し、全授業において課題提出を課す。 エドへんへの入力と課題の提出、両方を持って出席と見なす。課題の提出がない授業回は欠席扱いとして評価する。 授業内課題(20%）、第5回のオンライン小テスト（20%）・第14回の総括オンラインテスト(60%)を合計して評価する。 授業内課題は、授業内容に関する確認と考察の記述（第3回目以降とテスト実施回以外が評価対象）と教員への質問（評価対象外）により構成される。 課題の提出期限は、原則授業実施の翌週(月）17：00とする。 第5回・14回のテストは授業時間内、オンラインテストを実施、回答締め切りを行う。

参考書	新・精神保健福祉士養成講座第３版　２精神保健の課題と支援，日本ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ教育学校連盟編，中央法規
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	産能大学　メンタルマネジメント相談室においてインテーカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。 県内保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、精神保健福祉業務に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(5)／社会学部(6)／人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	堀内　美穂子(D-0104)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	公認心理師の職責				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	心3群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	公認心理師の役割と法的義務						
授業の概要	本科目は公認心理師受験資格取得に必要な科目である。 公認心理師の国家資格化までの歴史的経緯と，公認心理師の活動する主要5分野の職務内容と職業倫理を知り，要支援者を尊重した態度と心理学的支援職の職責について説明できることを目的とする。 資料の配付や授業内課題（確認テストやリアクションペーパー）提示にはGoogle　Classroomを使用し、オンライン授業実施時の動画についてはGoogle　Drive上の所定の場所（URL)においておく。						
到達目標	1．公認心理師の業務と役割について概説できる 2．公認心理師の法的義務や倫理について概説できる 3．公認心理師が活動する諸分野とその活動の実態、関連する他職種の役割と活動について概説できる 4．公認心理師の秘密保持義務や情報の適切な取り扱いについて判断できる 5．主要５分野（保健医療・福祉・教育・司法・犯罪）における具体的な業務と連携する関係職種について説明できる この科目は、社会学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問における基礎的・専門的知識を身につけている」「優しさと温かみに満ち，総合的な判断能力を持つことができる」，人間心理学科の「心理学，臨床心理学，カウンセリング等に関しての教育・研究を深め，専門知識と実践力を有し、真の人間を理解することができる」のディプロマ・ポリシーに基づく						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス：公認心理師誕生までの歴史的経緯 予習：公認心理師取得に必要な学習内容（履修科目と実習時間）について調べておく（100分） 復習：公認心理師に期待される社会的ニーズについて説明できる(100分)
第2回	公認心理師の役割と法的義務 予習：テキストp11~p21を精読する(100分) 復習：公認心理師の４つの業務と5つの活動分野について説明できる(100分)
第3回	公認心理師の法的義務と職業倫理 予習：テキストp22~p34を精読する（100分） 復習：公認心理師の法的義務を守秘義務について説明できる(100分)
第4回	要支援者の安全確保と人権尊重 予習：テキストp35~p46を精読する（100分） 復習：インテーク面接を行う意義やインフォームド・コンセントについて説明できる（100分）
第5回	情報取得と秘密保持 授業内課題：確認テスト 予習：テキストp48~p60を精読する（100分） 復習：秘密保持の例外状況について説明し，インフォームド・コンセントの実施のタイミングとその内容について説明できる（100分）
第6回	保健医療分野における公認心理師の業務 予習：テキストp61~p73を精読し，公認心理師が心理学的支援実践を行う施設名を調べ，ノートにまとめる(100分) 復習：医療機関で働く公認心理師が求められる能力と役割，連携する他職種について説明できる(100分)
第7回	福祉分野における公認心理師の業務 予習：テキストp74~p83を精読し，公認心理師が心理学的支援実践を行う施設名とその役割を調べ，ノートにまとめる(100分) 復習：福祉分野で働く公認心理師が求められる能力と役割，連携する他職種について説明できる(100分)
第8回	教育分野における公認心理師の業務 予習：テキストp84~p96を精読し，公認心理師が心理学的支援実践を行う施設名を調べ，ノートにまとめる(100分) 復習：教育分野で働く公認心理師が求められる能力と役割，連携する他職種について説明できる(100分)
第9回	司法・犯罪分野における公認心理師の業務 予習：テキストp97~p109を精読し，公認心理師が心理学的支援実践を行う施設名を調べ，ノートにまとめる(100分) 復習：司法・犯罪分野で働く公認心理師が求められる能力と役割，連携する他職種について説明できる(100分)
第10回	産業・労働分野における公認心理師の業務 予習：テキストp110~p120を精読し，公認心理師が心理学的支援実践を行う施設名を調べ，ノートにまとめる(100分) 復習：産業・労働分野で働く公認心理師が求められる能力と役割，連携する他職種について説明できる(100分)
第11回	主要５分野における公認心理師の具体的な業務と多職種連携 授業内作業：提示される事例について支援可能な適切な機関や支援職種を選び出す 予習：主要5分野とは何か，自分が関心をもって深めていきたい領域について書き出しておく 復習：ディスカッションを通じて得た自分への気づきをノートにまとめておく（100分）
第12回	自己課題の発見と解決，生涯学習

	予習：テキストp121~141を精読し，疑問を書き出しておく(100分) 復習：自己課題の発見の方法と解決，生涯学習の意義について説明できる(100分)
第13回	多職種連携と地域連携 予習：テキストp142~ｐ155を精読し，多職種による支援の課題について考えたことを書きだしておく(100分) 復習：連携の重要性や，地域連携の役割について説明できる(100分)
第14回	公認心理師の今後の展望 予習：テキストp156~p169を精読し，今持っている疑問について書き出しておく(100分) 復習：本授業を受講する前と受講した後で，自分にどのような変化が生じたか，支援職を目指す覚悟について自らの考えをまとめておく(100分)

成績評価方法・基準	授業内で不定期に実施するGoogle　Formを利用した確認テストや授業内課題（30%），定期試験(70%)により評価する。 確認テストは、回答提出時に成績を含めた回答のフィードバックが行われる。

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公認心理師の基礎と実践　1 公認心理師の職責	野島　一彦　編	遠見書房	978-4-86616-051-1	

参考書	
その他	授業においては，提出期限を定めて不定期に確認テストや授業内課題の提出を求める。 質問は、課題シートもしくはGoogle　Classroom内のコメント欄にて受け付ける。 その他連絡には、horiuchi@edogawa-u.au.jpを利用すること。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	産能大学　メンタルマネジメント相談室においてインテーカー業務に従事したのち、千葉県に精神保健福祉相談員として入庁。 保健所、精神保健福祉センター等に勤務し,精神保健福祉業務に従事。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(6)／人間心理学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	崎本　武志(T-0304)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	観光概論				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	日本の観光に関する見方を根本から変えるきっかけとする。						
授業の概要	この講座では、世界および日本における観光について理解するとともに、観光政策や観光業界および各関連産業・資源・制度・組織について、幅広く学習します。 第1回から第3回までは日本の観光について概説します。観光を学ぶ意義や歴史的な変化、日本にとって観光がいかに重要であるかについて、さまざまな角度から触れていきます。第4回からは観光政策や産業のあり方、環境および文化と観光との関連や世界遺産など、具体的な事項を中心に取りあげていきます。これらの学びを通して、皆さんにとって身近なところから観光を意識し、観光を通して世界や日本の情勢についての知識や知見を習得することを目的とします。 なお、この科目では資料の配付および閲覧は Google Classroom を使用し、オンライン授業実施時の動画についてはGoogle Meet を使用します。また、フィードバックレポートはGoogle Form を使用して提出していただきます。						
到達目標	世界の情勢や日本の構造変化とともに、観光のあり方や観光産業も変革を迫られています。外部からは見えにくい観光のあり方を知り、人類と観光と関係性や観光の持つ可能性を追求します。受講の結果、世界の観光や人的・物的交流に関する関心が高まり、大学を卒業されてからもビジネスやレジャーなどのさまざまな面で観光を生かし、豊かな社会の創造に携わられることを望みます。 本科目は現代社会学科ディプロマポリシー（1）「社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につける」、（3）「現代社会を規定し機能させている制度を理解し、そのあり方について検討し、考察する力を身につけている」、（4）「資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」、（5）「持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」と関連しています。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス（イントロダクション）：観光とは何か？について考える 予習：「観光とは何か」について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：「観光とは遊びか？学びか？」について考え、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第2回	観光を学ぶ意義と、さまざまな観光用語 予習：「観光を学ぶ意義」について考え、観光用語をインターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：今まで体験した中で印象に残っている観光・旅行体験をまとめ、今回学んだ用語のどれに当たるのか？について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第3回	日本の観光をとりまく、さまざまな変化について 予習：現在の日本の観光をとりまく、さまざまな変化や問題点について調べてみましょう。【100分程度】 復習：外国人観光客がもたらす異文化について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第4回	観光を学ぶ方法と、観光に関わる資源について（世界遺産検定試験および国内旅行業務取扱管理者試験について） 予習：観光に関する検定試験や資格試験について調べ、他の検定試験や資格試験との違いについて考えてみましょう。【100分程度】 復習：観光に関する検定試験や資格試験の学習で何が得られるかついて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第5回	文化遺産・自然遺産と観光との関係性について 予習：世界遺産について調べ、観光と世界遺産との関係について考えてみましょう。【100分程度】 復習：観光と世界遺産との関係について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第6回	日本の観光政策とクールジャパンについて 予習：クールジャパン政策について調べ、日本の観光政策について考えてみましょう。【100分程度】 復習：観光とクールジャパンについてどのように考えましたか。自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第7回	近隣・地元観光とインバウンドの重要性 予習：日本の観光における問題点について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：近隣・地元観光やインバウンドの重要性について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第8回	観光情報提供の重要性と旅行業界の変化について 予習：日本の旅行業界のあり方や観光情報の提供方法について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本の旅行業界を含めた観光業界全体について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第9回	温泉と観光の深い関係について 予習：日本の温泉について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本の温泉および温泉に関する産業について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第10回	観光のまなざしについて 予習：観光とは何かについて、原点に返って考えてみましょう。【100分程度】 復習：近所に存在する観光および観光のまなざしについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第11回	日本国民と観光について 予習：結局「日本国民とって観光とは何か」について、時代背景を念頭に置いて考えてみましょう。【100分程度】 復習：日本国民はどのように観光と向き合うべきかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】

第12回	観光とクリスマスについて 予習：観光と年中行事・祝祭日などとの関係性について調べてみましょう。【100分程度】 復習：観光と年中行事がどの程度関係性があるかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第13回	観光と年末年始ーコンテンツツーリズムについて 予習：コンテンツツーリズムや聖地巡礼について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本における年末年始の行事や、コンテンツツーリズムと各産業との関係性について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第14回	観光と人財ー本講義の総まとめ 予習：観光業界における人材や適性について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：観光業界で求められる人財像について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】

成績評価方法・基準	講義後にフィードバックレポートを毎回提出していただきます。これを提出してはじめて出席と認めます。レポートの提出なくして出席とは認めません。えどへんが入力されていてもレポートの提出が無いと欠席となりますのでご注意ください。 レポートは講義日翌日の０：００を締切とします。 評価方法および基準は下記のとおりです。 ・毎回のフィードバックレポートの提出回数およびその内容（50%） ・期末レポート提出およびその内容（50%） ・フィードバックレポートや発言など、積極的な姿勢が見られた場合は随時加点評価します。

参考書	『新しい時代の観光学概論　持続可能な観光振興を目指して』著者　島川崇　、出版社　ミネルヴァ書房 『現場に立つから、おもしろい――世界をつなぐ、ひと・モノ・しくみ』著者　江戸川大学現代社会学科（監修）、土屋薫・阿南透・大塚良治・川瀬由高・佐藤秀樹（編）、出版社　春風社
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株式会社JTBに12年間勤務。首都圏営業本部（東京日本橋支店・首都圏メディア販売事業部・海外旅行虎ノ門事業部・東京蒲田支店）に所属し、主として法人団体営業に従事した。
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)／現代社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	崎本　武志(T-0304)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	鉄道・交通論				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	ポストコロナの鉄道・交通はどのように変わるのか？						
授業の概要	この講座は日本の鉄道・交通の体系について理解するとともに、各業界で日常活用されている基本ルールを中心に学習します。第1回から第3回までは日本の交通体系を支えている交通産業の概説を中心に進めます。第4回以降は各交通機関の現場で日常的に活用されている「運賃・料金計算の基本」「各約款」の内容を学びます。ここでは、各交通機関と利用者との契約関係を理解し、現場で必要とされる知識を習得することを目的とします。 この講義は、結果として毎年9月に行われる国内旅行業務取扱管理者試験（国家試験）の「国内旅行実務」科目の事前学習ともなるので、受験希望者には有効な事前学習の機会となります。この国家資格を取得すると、旅行業だけでなく地方自治体や最近旅行業に積極的に参入している交通業界への就職にも有利となります。 鉄道ファンの方はもちろん、鉄道や交通に興味・関心のない方でも楽しく、役に立つ内容を盛り込んでいます。事前知識は必要ありませんので、ぜひ積極的に受講してください。 なお、この科目では資料の配付および閲覧は Google Classroom を使用し、オンライン授業実施時の動画についてはGoogle Meet を使用します。また、フィードバックレポートはGoogle Form を使用して提出していただきます。						
到達目標	日本の構造変化とともに鉄道･交通産業も変質を迫られています。外部からは見えにくいこうした産業の実情を知り、鉄道･交通産業の日本における役割を理解します。受講の結果、交通および観光産業に関する関心が高まり、国内旅行業務取扱管理者資格取得にチャレンジされることを望みます。 本科目は現代社会学科ディプロマポリシー（1）「社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につける」、（3）「現代社会を規定し機能させている制度を理解し、そのあり方について検討し、考察する力を身につけている」、（4）「資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」、（5）「持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」と関連しています。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス　講座の概要 交通業界に関する歴史および全体像について
第2回	日本の鉄道を学ぶ意義について 予習：日本の鉄道路線について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本の鉄道を学ぶ意義について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第3回	身近な鉄道路線について追究する（ＪＲ常磐線・ＴＸ線を事例として） 予習：皆さんの身近な鉄道路線や最寄駅について、調べてみましょう。【100分程度】 復習：鉄道を学ぶことによって習得できる知見はどのような分野があるかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第4回	ＪＲとは何か・ＪＲと私鉄・第三セクター鉄道について学ぶ 予習：ＪＲと私鉄の違い、および第三セクター鉄道とは何かについて、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：ＪＲと私鉄および第三セクター鉄道の違い、在来線と新幹線の違いについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第5回	路線名や駅名、列車種別について学ぶ 予習：日本の鉄道路線の名前や駅名に着目し、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：日本の鉄道路線や種別が多岐にわたっている点について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第6回	旅行業務取扱管理者試験問題とJR運賃制度の進化について学ぶ 予習：交通における「運賃」と「料金」の違いについて、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：幹線と地方交通線との違い、運賃と料金の制度のあり方について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第7回	旅行業務取扱管理者試験問題とJR運賃・料金について 予習：ＪＲにおける運賃の制度について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：運賃の割引制度や区間がどのようになっているかについて、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第8回	旅行業務取扱管理者試験問題とJR料金制度の進化について 予習：ＪＲの料金制度について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：乗車券類の有効期間や割引制度について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第9回	運賃・料金　実践編 予習：実際に鉄道を利用する立場に立って、旅行行程をたててみましょう。【100分程度】 復習：払戻制度や繁忙期・閑散期について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第10回	団体旅行・国際観光旅行に関する運賃と料金について 予習：団体割引運賃・料金と指定席・自由席・グリーン車について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：団体割引運賃・料金と指定席・自由席・グリーン車の料金設定について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第11回	観光地と交通との関係について 予習：観光地に行くための交通手段について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：観光地と交通手段について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】

第12回	交通業界の現場について（鉄道・交通関連業界関係者による講演予定） 予習：鉄道など交通業界の現場を実際に見ながら、問題点について考えてみましょう。【100分程度】 復習：交通業界での現場を実際に学んでどのように考えたか、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第13回	交通の魅力発出のために必要なことについて学ぶ（鉄道・交通関連業界による講演予定） 予習：交通産業の持続可能性について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：持続可能な交通業界を実現するには何が必要か、自分の考えをまとめてください。【100分程度】
第14回	鉄道・交通に関する課題と将来像ーまとめ 予習：鉄道・交通に関する課題について、インターネットなどで調べてみましょう。【100分程度】 復習：鉄道・交通に関する将来像について、自分の考えをまとめてください。【100分程度】

成績評価方法・基準	講義後にフィードバックレポートを毎回提出していただきます。これを提出してはじめて出席と認めます。レポートの提出なくして出席とは認めません。えどへんが入力されていてもレポートの提出が無いと欠席となりますのでご注意ください。 レポートは講義日翌日の０：００を締切とします。 評価方法および基準は下記のとおりです。 ・毎回のフィードバックレポートの提出回数およびその内容（50%） ・期末レポート提出およびその内容（50%） ・フィードバックレポートや発言など、積極的な姿勢が見られた場合は随時加点評価します。

参考書	「観光交通ビジネス」塩見英治編著　成山堂書店刊
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株式会社JTBに12年間勤務。首都圏営業本部（東京日本橋支店・首都圏メディア販売事業部・海外旅行虎ノ門事業部・東京蒲田支店）に所属し、主として法人団体営業に従事した。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)／現代社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	崎本　武志(T-0304)、大塚　良治（D-0302）			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	現代社会実習				
学期※2	2021年度前期、2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	現3群			区分（授業形態）	週間授業		
副題							
授業の概要	現在日本では「観光立国」を標榜しており、観光産業の成長が日本の将来を担うほど、観光産業の役割がますます重要になっています。 本ゼミナールでは、ホテルなどの宿泊産業、航空・バス・鉄道などの交通産業、旅行代理店を中心とする旅行産業、ディズニーリゾートやUSJなどのテーマパーク産業など観光を目的とする産業や、外食や小売販売店や博物館など公共施設をはじめとするホスピタリティ産業と呼ばれる業界をフィールドにし、これらについて演習や実習を通して自ら率先して探求していただきます。 なお、この科目では資料の配付および閲覧は Google Classroom を使用し、オンライン授業実施時の動画についてはGoogle Meet を使用します。また、フィードバックレポートはGoogle Form を使用して提出していただきます。						
到達目標	本ゼミナールは、下記の三点について理解を深めることを目的としています。 1．観光産業をはじめとするあらゆる産業について見聞を広める。 2．旅行・観光における基礎的な知識を学習し、知識を体得する。 3．企画力や社会人基礎力を養い、就職活動の基礎となる素養を身につける。 本科目は現代社会学科ディプロマポリシー （1）「社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につける」 （2）「フィールドワークを通して、社会の多様な活動を体験的に学び、諸問題の解決に向けて主体的に取り組むことができる」 （3）「現代社会を規定し機能させている制度を理解し、そのあり方について検討し、考察する力を身につけている」 （4）「資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」 （5）「持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」 と関連しています。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス：ゼミナール・実習活動についての説明
第2回	日本における観光の考え方ー演習に続き具体的な議論を踏まえて問題に取り組む 予習：日本の観光の問題点について調べる【100分】 復習：問題演習を行い、日本の観光に関する基礎知識を増やす【100分】
第3回	世界における観光の考え方ー演習に続き具体的な議論を踏まえて問題に取り組む 予習：世界の観光の問題点について調べる【100分】 復習：問題演習を行い、世界の観光に関する基礎知識を増やす【100分】
第4回	観光資源に関する研究・視察①自然観光資源ー演習に続き具体的な議論を踏まえて問題に取り組む 予習：自然観光資源について調べ、議論する内容をまとめる【100分】 復習：問題演習を行い、自然観光資源に関する基礎知識を増やす【100分】
第5回	観光資源に関する研究・視察②人文観光資源ー演習に続き具体的な議論を踏まえて問題に取り組む 予習：人文観光資源について調べ、議論する内容をまとめる【100分】 復習：問題演習を行い、人文観光資源に関する基礎知識を増やす【100分】
第6回	観光目的に関する研究・視察①サステイナブル・ツーリズムー演習に続き具体的な議論を行う 予習：サステイナブル・ツーリズムについて調べ、議論する内容をまとめる【100分】 復習：サステイナブル・ツーリズムに関する文献を読み、基礎知識を増やす【100分】
第7回	観光目的に関する研究・視察②マス・ツーリズムー演習に続き具体的な議論を行う 予習：マス・ツーリズムについて調べ、議論する内容をまとめる【100分】 復習：マス・ツーリズムに関する文献を読み、基礎知識を増やす【100分】
第8回	観光目的に関する研究・視察③コンテンツ・ツーリズムー演習に続き具体的な議論を行う 予習：コンテンツ・ツーリズムについて調べ、議論する内容をまとめる【100分】 復習：コンテンツ・ツーリズムに関する文献を読み、基礎知識を増やす【100分】
第9回	観光とまちづくり①ー演習に続き具体的な議論を行う 予習：観光まちづくりについて調べ、議論する内容をまとめる【100分】 復習：観光まちづくりに関する文献を読み、基礎知識を増やす【100分】
第10回	観光とまちづくり②ー演習に続き具体的な議論を行う 予習：観光まちづくりの実践事例について調べ、議論する内容をまとめる【100分】 復習：観光まちづくりの具体的な実践事例に関する文献を読み、基礎知識を増やす【100分】
第11回	観光とホスピタリティ①ホスピタリティ・マネジメントー演習に続き具体的な議論を行う 予習：ホスピタリティ・マネジメントについて調べ、議論する内容をまとめる【100分】 復習：ホスピタリティ・マネジメントに関する文献を読み、基礎知識を増やす【100分】
第12回	観光とホスピタリティ②ホスピタリティ産業全般についてー演習に続き具体的な議論を行う

	予習：ホスピタリティ産業全般について調べ、議論する内容をまとめる【100分】 復習：ホスピタリティ産業全般に関する文献を読み、基礎知識を増やす【100分】
第13回	観光とホスピタリティ③エージェントー演習に続き具体的な議論を行う 予習：旅行業界全般について調べ、議論する内容をまとめる【100分】 復習：旅行業界全般に関する文献を読み、基礎知識を増やす【100分】
第14回	専門研修・観光コンテストに関するガイダンスー演習に続き具体的な企画立案を行う 予習：観光関連のコンテストについて調べ、議論する内容をまとめる【100分】 復習：観光関連のコンテストに関する過去の事例を調べ、まとめる【100分】
第15回	専門研修・観光コンテストに関する成果発表①ー演習に続き成果発表を行う 予習：成果発表での議論する内容をまとめる【100分】 復習：成果発表についての議論結果をまとめる【100分】
第16回	専門研修・観光コンテストに関する成果発表②ー演習に続き成果発表を行う 予習：成果発表での議論する内容をまとめる【100分】 復習：成果発表についての議論結果をまとめる【100分】
第17回	観光・地域再生に関する企画作成①ー演習に続き企画作成を行う 予習：地域再生に関する議論内容をまとめる【100分】 復習：地域再生に関する議論の結果をまとめる【100分】
第18回	観光・地域再生に関する企画作成②ー演習に続き企画作成に取り組む 予習：地域再生に関する具体的な企画を立案する【100分】 復習：地域再生に関する具体的な企画内容を方向づける【100分】
第19回	観光・地域再生に関する企画作成③ー演習に続き企画作成に取り組む 予習：地域再生に関する具体的な企画の作成にとりかかる【100分】 復習：地域再生に関する具体的な企画内容を精査し修正する【100分】
第20回	観光・地域再生に関する企画作成④ー演習に続き企画作成に取り組む 予習：地域再生に関する企画を作成する【100分】 復習：地域再生に関する企画を作成する【100分】
第21回	観光・地域再生に関する企画作成⑤ー演習に続き企画作成に取り組む 予習：地域再生に関する具体的な企画を完成させる【100分】 復習：地域再生に関する完成した企画を精査し修正する【100分】
第22回	観光・地域再生に関するプレゼンテーション①ー演習に続きプレゼンテーション作成に取り組む 予習：地域再生に関するプレゼンテーション資料の立案を行う【100分】 復習：地域再生に関するプレゼンテーション資料の議論内容を整理する【100分】
第23回	観光・地域再生に関するプレゼンテーション②ー演習に続きプレゼンテーション作成に取り組む 予習：地域再生に関するプレゼンテーション資料を作成する【100分】 復習：地域再生に関するプレゼンテーション資料を完成させる【100分】
第24回	観光・地域再生に関するプレゼンテーション③ー演習に続きプレゼンテーション作成に取り組む 予習：地域再生に関するプレゼンテーション資料を完成させ、発表内容をまとめる【100分】 復習：地域再生に関するプレゼンテーション資料を精査・修正する【100分】
第25回	観光・地域再生に関するプレゼンテーション④ー演習に続きプレゼンテーション作成に取り組む 予習：地域再生に関するプレゼンテーション資料を完成させ、発表内容をまとめる【100分】 復習：地域再生に関するプレゼンテーション資料を精査・修正する【100分】
第26回	観光・地域再生に関するプレゼンテーション⑤ー演習に続きプレゼンテーション作成に取り組む 予習：地域再生に関するプレゼンテーション資料を完成させ、発表内容をまとめる【100分】 復習：地域再生に関するプレゼンテーション資料を精査・修正する【100分】
第27回	専門ゼミナールに向けた取組①演習に続き意見交換を行う 予習：専門ゼミナールに向けた取組に関する意見をまとめる【100分】 復習：専門ゼミナールに向けた取組に関する意見を精査・修正する【100分】
第28回	専門ゼミナールに向けた取組②演習に続き意見交換を行う 予習：専門ゼミナールに向けた取組に関する意見を固める【100分】 復習：専門ゼミナールに向けた取組に関する方向づけを行う【100分】

成績評価方法・基準	出席することが前提条件で、参加意欲や貢献度、新奇的な発想力と整理・分析力、及び成果発表会でのプレゼンテーションにより、総合的に評価します。 評価割合は出席および毎回のレポート50%、成果発表会でのプレゼンテーションおよびその取り組み50%です。 参加意欲や貢献度については適宜加点評価します。

参考書	
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	株式会社JTBに12年間勤務。首都圏営業本部（東京日本橋支店・首都圏メディア販売事業部・海外旅行虎ノ門事業部・東京蒲田支店）に所属し、主として法人団体営業に従事した。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／社会学部(3)／社会学部(5)／社会学部(6)／社会学部(7)／現代社会学科(1)／現代社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中島　慶二(D-0702)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	自然遺産論				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	「自然遺産」という自然環境を守り活かす考え方						
授業の概要	自然環境と社会とのかかわりを、自然遺産という切り口でとらえ、日本の自然環境の概況と自然環境を資源として活用してきた様々な方法について学ぶ。またその前提的な基礎知識として自然遺産の価値の理解に必要な、生態学、生物学に関する基礎的な知識を学ぶ。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。 オンライン授業は、まず学期が始まる際にGoogleClassroom（学習マネジメントシステム）の自然遺産論のクラスに学生が参加登録し、毎回の授業ではまずGoogleClassroomにアクセスして、各回の指示に従って、資料を閲覧したりオンライン授業を受講する。原則としてはリアルタイムのGoogleMeet（テレビ会議システム）によるオンライン授業。						
到達目標	日本の自然環境の概況を理解し、代表的な自然環境である世界自然遺産の概要と価値、主要な保全上の課題について説明できる。 この科目は社会学部の「2　教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」「5　現代の社会における諸課題の解決をはかりながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」, 現代社会学科の「1　社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につけている」「4　資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」「5　持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連している。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	年間授業計画説明（自己紹介、概要紹介、受講ルール、採点方針） 世界自然遺産とは何か、ごく簡単な説明 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第2回	日本の世界自然遺産 日本の世界自然遺産4か所のそれぞれの自然環境の特徴とＯＵＶの理解 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第3回	奄美・沖縄の遺産登録 2021年夏まえに世界遺産委員会において登録の可否が決まる奄美沖縄の自然遺産登録を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第4回	気象と生物 生物や生態系の基本となる気象と生物の関係を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第5回	生態系と生物多様性 生物と生態系、生物多様性について概要を学び、生態系の成り立ちや生物種の価値について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第6回	日本の生物多様性 日本の生物多様性の現状を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第7回	自然の価値評価 自然環境を価値づける方法について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第8回	小テスト 前半の講義内容について小テストを行う 予習：前半の講義内容の復習200分
第9回	文化遺産・エコパーク・ジオパーク 自然遺産と文化遺産の違い、世界自然遺産に類似の制度としてのエコパーク、ジオパークについて学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第10回	絶滅危惧種の保護

	絶滅の危険にさらされている生物の実態や全体の現状について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第11回	外来種問題 生物多様性の問題の一つである外来種問題について現状と対策を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第12回	保護地域 生物多様性の確保のための地域保全政策として、国立公園、自然環境保全地域等を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第13回	外部講師による特別講義 環境省自然環境局又は地方環境局の職員による特別講義を予定。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第14回	講義まとめ 全体の復習と重要事項の確認を行う 予習：全体の講義内容の復習200分

成績評価方法・基準	日本の自然環境の概況、世界自然遺産の概要と価値、主要な保全上の課題に関する定期試験60%、平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）40%を合計して評価する。

参考書	『自然公園の手引き』 自然公園財団発行
その他	定期試験には自筆ノートのみ持ち込み可
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境省（庁）で33年間勤務。主な勤務ポストは国立公園管理や野生生物保護を担当する現場の自然保護官事務所や、法律の立案などを担当する環境省本省自然環境局。この他、長崎県庁、宮内庁、復興庁、IGESなど、地方も含め他分野の行政や研究機関も経験。これらの経験を活かし毎回授業の冒頭において最近の環境関係記事を紹介、背景解説を行う。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(5)／現代社会学科(1)／現代社会学科(4)／現代社会学科(5)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中島　慶二(D-0702)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	環境の政治学				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	環境問題を政治問題として学ぶ						
授業の概要	環境問題には様々なステークホルダーが関係していることから、容易に解決せず、政治的課題になることも多い。解決を阻む要因とは、解決へ向かわせる要因とは何なのか。現実に起きた環境問題の発生要因・解決経過とを取り上げて、環境問題を社会的存在として学習する。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。 オンライン授業は、まず学期が始まる際にGoogleClassroom（学習マネジメントシステム）の環境の政治学のクラスに学生が参加登録し、毎回の授業ではまずGoogleClassroomにアクセスして、各回の指示に従って、資料を閲覧したりオンライン授業を受講する。原則としてはリアルタイムのGoogleMeet（テレビ会議システム）によるオンライン授業。						
到達目標	主要な環境問題の本質を、社会科学的な視点で分析できるようになる。また、環境問題に対応する法令とその概要について理解し説明できる。 この科目は社会学部の「2　教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」「5　現代の社会における諸課題の解決をはかりながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」, 現代社会学科の「1　社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につけている」「4　資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」「5　持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連している。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	概要・年間授業計画説明（自己紹介、概要紹介、受講ルール、採点方針など）
第2回	身近な環境問題・水質汚濁 最も身近な環境問題であり自分たちが暮らしていくうえで必ず環境を汚してしまうことを理解するために水質汚濁問題は最もわかりやすい課題である。水質汚濁問題を通してまず環境問題のむつかしさを理解する。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第3回	尾瀬問題と国土開発 経済的な発展や国土開発と環境問題の悩ましい関係を理解する。尾瀬の道路中止問題を典型的な例として取り上げ詳しく解説する。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第4回	公害問題の典型・水俣病 日本の高度経済成長に生じた初期の公害の典型である水俣病を開設し、なぜこの事件が起きたのか考える。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第5回	コモンズの悲劇 さまざまな環境問題をどう理解し解決するか、まずは本質的な構造を理解する必要がある。基本的な理解のための理論を学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第6回	廃棄物と拡大生産者責任 プラスチックごみに代表される複合的な環境問題である廃棄物問題について、豊島を例に取り上げて学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第7回	鳥獣害とオオカミ 近年イノシシ都市化の急激な増加による様々な問題が顕在化し、生態系のバランスが崩れ始めている。この問題を深く掘り下げるとともに対応策を考える。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第8回	小テスト 前半の講義で学んだことについて小テストを行う。 予習：前半講義の復習200分
第9回	温暖化対策 現代解決のめどが立っていない環境問題は大きくふたつ。温暖化問題と生物多様性問題。ち、最大の課題である温暖化問題について現状を学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分

第10回	外来生物対策 外来生物問題は社会の経済的な発展とともに激しくなりつつある。どのような問題がありどう対応しているのか。対応施策を学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第11回	市場の失敗 環境問題の発生は社会問題であるとともに経済問題であり、経済社会のありようを変革していかなければ解決しない。市場の失敗から環境問題の原点を探る。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第12回	環境法をつくる（エコツーリズム推進法を例に） 法律による環境対策としてはどのようなことが可能で、また、どのようなことができないのか。実際の立法過程を見ながら学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第13回	外部講師による特別講義 環境省本省又は地方環境事務所職員による特別講義を予定。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第14回	まとめ：講義全体を通して環境問題解決のための手順と手法を復習し、重点事項を確認する。 予習：全体講義の復習200分

成績評価方法・基準	主要な環境問題の本質並びに社会科学的な視点での分析、環境問題に対応する法令とその概要に関する定期試験60%、平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）40%を合計して評価する。

参考書	『文系のための環境科学入門【新版】』 藤倉良・藤倉まなみ　有斐閣
その他	定期試験には自筆ノートのみ持ち込み可
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境省（庁）で33年間勤務。主な勤務ポストは国立公園管理や野生生物保護を担当する現場の自然保護官事務所や、法律の立案などを担当する環境省本省自然環境局。この他、長崎県庁、宮内庁、復興庁、IGESなど、地方も含め他分野の行政や研究機関も経験。これらの経験を活かし毎回授業の冒頭において最近の環境関係記事を紹介、背景解説を行う。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(5)／現代社会学科(1)／現代社会学科(4)／現代社会学科(5)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中島　慶二(D-0702)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	国立公園論/国立公園及び世界遺産論				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	最重要自然保護ツール、「国立公園」を知る						
授業の概要	世界の国立公園の潮流、現況と保護地域の中の国立公園の価値評価、管理運営上の問題と解決へ向けて辿った経緯、現在の課題を学び、主に制度面の発達史を意識した学習を通して国立公園という存在を多角的に理解・把握する。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。 オンライン授業は、まず学期が始まる際にGoogleClassroom（学習マネジメントシステム）の国立公園論のクラスに学生が参加登録し、毎回の授業ではまずGoogleClassroomにアクセスして、各回の指示に従って、資料を閲覧したりオンライン授業を受講する。原則としてはリアルタイムのGoogleMeet（テレビ会議システム）によるオンライン授業。						
到達目標	自然保護地域の代表的典型的存在である国立公園の思想、基本的制度、実態、課題にかかる基本常識を持ち、現代の国立公園が抱えている代表的課題について説明することができる。 この科目は社会学部の「2　教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」「5　現代の社会における諸課題の解決をはかりながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」, 現代社会学科の「1　社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につけている」「4　資源の有限性を前提とした利活用のあり方を見直し、マネジメントする力を身につけている」「5　持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連している。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	年間授業計画説明（自己紹介、概要紹介、受講ルール、採点方針）、 国立公園の概要と歴史について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第2回	日本の国立公園 34の国立公園の概要を紹介する 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第3回	営造物公園と地域制公園（アメリカと日本・国立公園の二大制度）、地域制公園の管理上の課題について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第4回	日本の国立公園の指定と対象地域、指定基準の変遷について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第5回	公園計画①保護計画の内容、意義、実際の運用について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第6回	公園計画②利用計画の内容、意義、実際の運用について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第7回	施設整備　施設整備計画や実際の整備の進め方、様々な施設について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第8回	廃屋化が進む日本の国立公園の利用拠点と集団施設地区の再整備（層雲峡を例に）について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第9回	地域制国立公園制度の基本的な制度である許認可調整について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第10回	国立公園の管理制度と現地での管理を担っているレンジャーの仕事について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第11回	エコツーリズムと国立公園の関係、エコツーリズムの利点や弱点などを学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分

第12回	現在の日本のインバウンド政策と国立公園満喫プロジェクトの内容について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第13回	明治期以降の日本の社会背景推移と日本の国立公園制度の推移について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第14回	ここまでの講義内容の全体を復習し、重要事項を確認する 予習：全体講義の復習200分

成績評価方法・基準	自然保護地域の代表的典型的存在である国立公園の思想、基本的制度、実態、課題にかかる基本常識を持ち、現代の国立公園が抱えている代表的課題についての定期試験60%、平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）40%を合計して評価する。

参考書	『国立公園論』 国立公園研究会・自然公園財団 南方新社 『自然公園の手引き』 自然公園財団
その他	定期試験には自筆ノートのみ持ち込み可
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境省（庁）で33年間勤務。主な勤務ポストは国立公園管理や野生生物保護を担当する現場の自然保護官事務所や、法律の立案などを担当する環境省本省自然環境局。この他、長崎県庁、宮内庁、復興庁、IGESなど、地方も含め他分野の行政や研究機関も経験。これらの経験を活かし毎回授業の冒頭において最近の環境関係記事を紹介、背景解説を行う。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(5)／現代社会学科(1)／現代社会学科(4)／現代社会学科(5)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中島　慶二(D-0702)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	環境概論				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	現2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	環境問題の基礎を学ぶ						
授業の概要	現代社会の重要問題である環境問題について、過去及び現在の代表的な環境問題を対象に、それぞれの原因や対策について学び、持続可能な社会の構築に向け、環境問題解決のために必要なこととは何かを考える。 毎回授業の最後において授業の中で出た用語や問題などについての小レポートを課す。 オンライン授業は、まず学期が始まる際にGoogleClassroom（学習マネジメントシステム）の環境概論のクラスに学生が参加登録し、毎回の授業ではまずGoogleClassroomにアクセスして、各回の指示に従って、資料を閲覧したりオンライン授業を受講する。原則としてはリアルタイムのGoogleMeet（テレビ会議システム）によるオンライン授業。						
到達目標	日本と世界の環境問題の概況を理解し、代表的な環境問題のいくつかについてその原因と対策を説明できる。 この科目は社会学部の「2　教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」「5　現代の社会における諸課題の解決をはかりながら、持続可能な社会の構築に貢献できる」, 現代社会学科の「1　社会を捉えるための基礎的な知識と調査力を身につけている」「5　持続可能な社会を構築するために、地域社会で生じている様々な問題を発見し解決する力を身につけている」というディプロマ・ポリシーに関連している。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	シラバス説明・環境とは何か 環境問題の過去の経緯と現状を簡単におさらいする 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第2回	地球温暖化① 地球温暖化のメカニズムを理解し、対策の困難さを学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第3回	地球温暖化② 地球温暖化の進行状況や対策の現状。今後の取り組み方向について学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第4回	エネルギー問題 エネルギー問題は地球温暖化問題と表裏一体。技術的な課題や新規技術などについて学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第5回	生物多様性① 地球温暖化と並び解決が困難な生物多様性劣化問題について、その現状を学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第6回	生物多様性② 生物多様性劣化問題のうち絶滅防止、外来種問題について詳細に学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第7回	廃棄物問題 廃棄物問題と市場経済、規制、技術的進展について学ぶ。 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第8回	小テスト 前半で学んだことについてテストを実施する 予習：全体講義の復習200分
第9回	水質汚濁 最も身近な環境問題である水質汚濁問題を有機汚濁と化学物質汚染の両面から理解する 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第10回	大気汚染 健康被害に直結する大気汚染問題と現状の取り組み状況を理解する 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分

第11回	化学物質汚染 文明の発達に伴い発生する様々な化学物質と対策の取り組みを学ぶ 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第12回	都市化 都市化に伴い発生する様々な問題と環境をつなげて理解する 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第13回	各種施策 環境問題に対応する施策のありようについて概要を理解する 予習：毎回のテーマに関する事前学習（ネット及び参考書での用語検索）100分 復習：毎回のテーマに関する事後学習100分
第14回	講義まとめ これまでの講義をまとめ重要箇所の復習を行う 予習：全体講義の復習200分

成績評価方法・基準	日本と世界の環境問題の概況を理解し、代表的な環境問題のいくつかについてその原因と対策を問う定期試験60%、平常点（授業中の発言、復習などの努力、積極的に取り組む姿勢等）40%を合計して評価する。

参考書	『文系のための環境科学入門【新版】』 藤倉良・藤倉まなみ　有斐閣 『環境社会検定試験ｅｃｏ検定公式テキスト』 東京商工会議所　日本能率協会マネジメントセンター
その他	
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	環境省（庁）で33年間勤務。主な勤務ポストは国立公園管理や野生生物保護を担当する現場の自然保護官事務所や、法律の立案などを担当する環境省本省自然環境局。この他、長崎県庁、宮内庁、復興庁、IGESなど、地方も含め他分野の行政や研究機関も経験。これらの経験を活かし毎回授業の冒頭において最近の環境関係記事を紹介、背景解説を行う。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(5)／現代社会学科(1)／現代社会学科(5)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中口　哲治(T-1002)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	ファッションビジネス入門I				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	ファッション業界のカテゴリーに触れる						
授業の概要	人々のベーシックな営みに加え流行やおしゃれといった感覚的で、不透明な世界をビジネスの最前線に取り入れて成功して来たのがファッション業界である。本講座はファッションに興味があるが詳しくは知らない、あるいはもっと知りたいと思っている学生たち向けのファッション業界入門編として位置づける。具体的にはメンズ、レディス、ビューティ、ブライダル、スポーツなどファッション業界を構成する様々なカテゴリーの存在について理解し、多面的に考察説明できることを目的とする。 注1) この科目では、エドクラテスを活用して授業を実施する 注2) 新型コロナ感染対策の観点から、授業形態を対面とオンラインを組み合わせて実施する。オンライン授業は、Google meetを使って行う。						
到達目標	ファションにかかわる様々な業界にスポットを当て業界の仕組みやプレイヤー、企業活動の様子を知る。このことにより他の業界との違いを対比推測するといった基本動作を身につけ、第三者に対してファッション業界のポジショニングを説明できる程度の基礎知識の獲得を目的としている。 この科目は経営社会学科のディプロマポリシー「新規ビジネスの創造、ファッションビジネス等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を育成する」に関連し、ファションビジネスの現場で働く際に必要な基本的な知識とスキルの習得とを到達目標とする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション/講義概要と進め方、ファッションとは？ 予習：ファッションの多様性について調べておく(120分) 復習：ファッション、モードの概念について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第2回	ガールズファッションと市場 /ギャルの歴史、ガールズコレクションという起爆剤 予習：Webで「ストリートスナップ」女子版を検索して閲覧しておく(120分) 復習：ガールズ市場の全体像について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第3回	メンズファッションと市場 / 平成男子の実態、男服の変化 予習：Webで「ストリートスナップ」男子版を検索して閲覧しておく(120分) 復習：平成男子の生態とファッション観について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第4回	化粧品業界について/ 最新コスメ、UVケア、美容関連 予習：百貨店の化粧品売り場に行きメーカーの特徴を調べておく(120分) 復習：化粧品業界の概要と特徴について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第5回	ブライダルビジネスの現状 /結婚に対する意識、最新ウェディング事情 予習：最近の結婚事情についてWebで調べておく(120分) 復習：ブライダルビジネスの概要と特徴について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第6回	進化するスポーツウエア業界 /スポーツの広がり、スポーツウエアトレンド 予習：好きなスポーツウエアブランドを一つ選んで特徴を調べておく(120分) 復習：スポーツウエア業界とファッション業界の関係性について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第7回	キャラクタービジネスの概要 /キャラクターの分類、ハローキティの世界戦略 予習：好きなキャラクターを一つ選びホルダー企業について調べておく(120分) 復習：キャラクタービジネス業界の概要について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第8回	キャラクター調査演習　キャラクターの概要と開発経緯、ビジネス構造(キャラクターを1人1コ選び調査分析を行う) 予習：ピックアップしたキャラクターのライセンスホルダーを調べておく(120分) 復習：ピックアップしたキャラクターのビジネス構造について説明できる
第9回	ファションビジネスの構造/時代の変化とファッション、ファッション業界の仕事 予習：Web検索でファッション業界の仕組みについて調べておく(120分) 復習：ファッションビジネスの構造について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第10回	アパレルメーカーとSPAのビジネス /ビジネスモデル、ZARA,H&M,GUその他の実態 予習：Web検索でアパレルSPAについて調べておく(120分) 復習：アパレルメーカーとSPAの違いについて説明できる/配布した資料を再読(80分)
第11回	素材産業と商社の役割 /ハイテク素材の現状、繊維専門商社の実態 予習：素材産業の概要について調べておく(120分) 復習：素材産業と商社の役割 について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第12回	ファッション小売業の概要 / 百貨店のビジネス、ショッピングセンターの戦略

	予習：ショッピングセンターに行ってファション売り場の状況を調べておく(120分) 復習：ファッション小売業の現状について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第13回	急成長するECとセレクトショップ/ファッション系ネット通販、BEAMS,ユナイテッドアローズ,アーバンリサーチなど 予習：好きなファッションECサイトのサイトマップを調べておく(120分) 復習：ECとセレクトショップのビジネスについて説明できる/配布した資料を再読(80分)
第14回	ファッション業界の未来について/まとめと振り返り 予習：ファッションとAI活用についてネットで調べておく(120分) 復習：ファッション業界の未来について説明できる/配布した資料を再読(80分)

成績評価方法・基準	対面授業、オンライン授業に関わらず、以下の評価手法を用いる。 評価は、ファションビジネスの現場で働く際に必要な基本的な知識とスキルの習得という科目到達目標に対して、 平常点（授業中(オンライン含む)の発言、小課題の提出、予習復習などの努力等）42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。 演習課題は提出後、必要に応じてフィードバックを行う。

参考書	「よくわかるアパレル業界」繊研新聞編集局著　日本実業出版社
その他	授業の内容に関して疑問や質問等がある場合は、nguchi@edogawa-u.ac.jp (中口エドメールアドレス)に連絡すること。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	鐘紡株式会社(ファッション研究所)にて、国内外トレンド分析・発信業務に従事。その後、マーケティングディレクターとして丸井、三井物産、ワコールなど様々なファッション関連企業のブランドプロデュース業務に携わる。2007年、ファッションプロデュース会社の代表取締役に就任し、経営管理の実務を担当。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習）／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／経営社会学科(1)／経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中口　哲治(T-1002)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	ファッションマーケティング論				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	ファッション企業におけるマーケティング戦略						
授業の概要	グローバル競争化時代を迎え日本のファッション企業は自らのブランド商品力に磨きをかけ世界に市場を見出しはじめている。ファッションマーケティング論では消費者の満足を得る商品を作る売るために市場分析、商品政策、店舗政策、コミュニュケーション施策はどうあるべきかなどファッション企業のマーケティング戦略について理解し、多面的に考察説明出来ることを目的とする。 注1) 新型コロナ感染対策の観点から、授業形態を対面またはオンライン(オンデマンド型)で実施する。 注2) オンライン(オンデマンド型)授業の場合は、エドクラテスと動画を活用して授業を実施する						
到達目標	ファッション分野で著しく成長をとげる企業の経営及びマーケティング戦略について学び様々な事例の中から企業活動の本質を見抜く力を養う。あわせて業界各論に対して議論できる応用的な知識の獲得を目的としている。この科目は経営社会学科のディプロマポリシー「新規ビジネスの創造、ファッションビジネス等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を育成する」に関連し、ファションビジネスの現場で働く際に必要なマーケティング知識と応用スキルの習得を到達目標とする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ファッションマーケティングとは/ファッションビジネス環境の変化 予習：一般的なマーケティングについて調べておく(120分) 復習：ファッションマーケティングの概念について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第2回	ファッションマーケティングの構造／消費者動向、自社、競合他社動向含む３C分析、PEST分析その他 予習：Web検索でマーケティングにおける環境分析について調べておく(120分) 復習：環境分析の手法について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第3回	ブランドビジネスの創造/ブランドとブランディング戦略 予習：好きなブランドを一つピックアップし、その戦略について調べておく(120分) 復習：ブランドとブランディングの違いについて説明できる/配布した資料を再読(80分)
第4回	STP分析/市場細分化（消費者分類、感性、着用機会etc.）とターゲットポジショニング 予習：若者が好きなファッションを分類しておく(120分) 復習：市場細分化の手法について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第5回	流行のサイクルとアパレル企業の流行予測システム 予習：最近、流行っているモノ・コトについて調べておく(120分) 復習：アパレル業界における流行の作り方について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第6回	4P/アパレル企業のマーチャンダイジング戦略/　商品構成、価格と原価 予習：アパレルの製造過程について調べておく(120分) 復習：アパレル商品の小売価格と原価の関係性について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第7回	4P/アパレル企業のチャネル戦略/　店舗、流通 予習：アパレル実店舗と ECショップについて調べておく(120分) 復習：アパレル実店舗とECの関係性について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第8回	4P/アパレル企業のコミュニケーション戦略 予習：アパレル企業・ブランドの広告表現について調べておく(120分) 復習：ファッション広告の変遷と最新事情について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第9回	ブランド開発演習-1 / 仮想的なブランドを作る①　ガイダンス、環境分析（消費者動向など）と仮説設定 予習：コラボができそうなブランドを幾つか探しておく(120分) 復習：仮説部分について再度検討を加える(80分)
第10回	ブランド開発演習-2 / 仮想的なブランドを作る②　コンセプト、STPと4Pの具体化 予習：企画したブランドの4Pについて書く内容を決めておく(120分) 復習：企画したブランドの4Pについて再度検討を加える(80分)
第11回	ファッション小売業のマーケティング/店舗運営、 店舗開発 予習：アパレルショップを訪問し、売り場作りについて調べておく(1020分) 復習：アパレル小売にとって重要なポイントとは？を説明できる/配布した資料を再読(80分)
第12回	ファッション小売（店舗）のマーチャンダイジング/品揃えとVMD仕入れ、販売業務と店舗の販促 予習：アパレルショップを訪問し、VMDについて調べておく(120分) 復習：バイイングとVMDのあり方について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第13回	ECサイトのマーケティング / デジタルマーケティングの実情

	予習：アパレルブランドのWEB広告とプロモーションついて調べておく(120分) 復習：WEBプロモーションの重要性について説明できる/配布した資料を再読(80分)
第14回	最新マーケティング事情 / 業界の未来予測と考察 予習：最近のAI活用事例について調べておく(120分) 復習：アパレル業界のAI活用と課題について説明できる/配布した資料を再読(80分)

成績評価方法・基準	対面授業、オンライン(オンデマンド含む)授業に関わらず、以下の評価手法を用いる。 評価は、ファションビジネスの現場で働く際に必要なマーケティング知識と応用スキルの習得という科目到達目標に対して、 平常点（小課題の提出、積極的に取り組む姿勢、復習などの努力等）42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。 ブランド開発演習課題は提出後、必要に応じてフィードバックを行う。

参考書	「マーケティング戦略」和田充夫他著　有斐閣アルマ(出版社)
その他	授業の内容に関して疑問や質問等がある場合は、nguchi@edogawa-u.ac.jp (中口エドメールアドレス)に連絡すること。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	鐘紡株式会社(ファッション研究所)にて、国内外トレンド分析・発信業務に従事。その後、マーケティングディレクターとして丸井、三井物産、ワコールなど様々なファッション関連企業のブランドプロデュース業務に携わる。2007年、ファッションプロデュース会社の代表取締役に就任し、経営管理の実務を担当。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／経営社会学科(1)／経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	中口　哲治(T-1002)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	ファッションマネジメント論				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	ファッション企業における経営戦略（ファッションマネジメント論）						
授業の概要	グローバル競争化時代を迎え日本のファッション企業は自らのブランド商品力に磨きをかけ世界に市場を見出しはじめている。ファッションマネジメント論では様々なファッション企業の経営戦略にフォーカスし、成功・失敗といったケーススタディの中から今後のファッション企業はどのような戦略をとるべきかを自分なりに理解し、多面的に考察説明出来ることを目的とする。 注1) 新型コロナ感染対策の観点から、授業形態を対面またはオンライン(オンデマンド型)で実施する。 注2) オンライン(オンデマンド型)授業の場合は、エドクラテスと動画を活用して授業を行う。						
到達目標	ファッション分野で著しく成長をとげる企業または低迷する企業の経営及びマーケティング戦略について学び様々な事例の中から企業活動の本質を見抜く力を養う。あわせて業界各論に対して議論できる応用的な知識の獲得を目的とする。この科目は経営社会学科のディプロマポリシー「新規ビジネスの創造、ファッションビジネス等、ビジネス最前線で活躍できる応用力を育成する」に関連し、ファションビジネスの現場で働く際に必要なマネジメント関連知識と応用スキルの習得を到達目標とする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション/ 講義概要と進め方、マネジメントとは？ 予習：様々なマネジメントの形態について調べておく(120分) 復習：マネジメントの概念について説明できる/資料の再視聴(80分)
第2回	企業とインプット(資本コントロール)/Francfrancのマネジメントバイアウト 予習：マネジメントバイアウトついて調べておく(120分) 復習：Francfrancの事例に基づき企業のインプット戦略について説明できる/資料の再視聴(80分)
第3回	企業とアウトプット(製品・ブランド) /イッセイミヤケの市場地位戦略 予習：一般的な企業の市場地位戦略について調べておく(120分) 復習：イッセイミヤケの事例に基づき企業のアウトプット戦略について説明できる/資料の再視聴(80分)
第4回	競争戦略のマネジメント-1/ しまむらのコストリーダーシップ戦略 予習：一般的な企業の競争戦略について調べておく(120分) 復習：しまむらの事例に基づき企業の競争戦略について説明できる/資料の再視聴(80分)
第5回	多角化戦略のマネジメント/ストライプインターナショナルの市場最適化戦略 予習：一般的な企業の多角化戦略について調べておく(120分) 復習：ストライプインターナショナルの事例に基づき企業の多角化戦略について説明できる/資料の再視聴(80分)
第6回	国際化のマネジメント/ユニクロのグローバルマーケティング戦略 予習：一般的な企業の国際化戦略について調べておく(120分) 復習：ユニクロの事例に基づき企業のグローバル戦略について説明できる/資料の再視聴(80分)
第7回	マクロ・ミクロ組織戦略/ ワコールの人間至上主義戦略 予習：一般的な企業の組織戦略について調べておく(120分) 復習：ワコールの事例に基づき企業の組織戦略について説明できる/資料の再視聴(80分)
第8回	企業のコアコンピタンス考 / タサキの技術志向、顧客志向 予習：コアコンピタンスについて調べておく(120分) 復習：タサキの事例に基づき企業のコアコンピタンスについて説明できる/資料の再視聴(80分)
第9回	競争戦略のマネジメント-2/ ZOZOTOWN一人勝ち戦略戦略、 SWOT分析とは 予習：ZOZOTOWNのサイトに入ってユーザビリティを確認しておく(120分) 復習：一人勝ち戦略、SWOT分析について説明できる/資料の再視聴(80分)
第10回	経営戦略演習-1　企業のクロスSWOT分析と経営戦略(有力企業を1人1社選び戦略分析を行う) 予習：クロスSWOT分析の事例について調べておく(120分) 復習：ピックアップした企業のクロスSWOT分析結果について説明できる
第11回	経営戦略演習-2　企業のバリューチェーン分析と経営戦略(有力企業を1人1社選び戦略分析を行う) 予習：バリューチェーン分析、財務分析の概要ついて調べておく(120分) 復習：ピックアップした企業のバリューチェーンと中長期戦略について説明できる

第12回	企業における戦略的CSRとは/モンペルの企業姿勢と社会貢献活動 予習：一般的な企業のCSRについて調べておく(120分) 復習：モンペルの事例に基づき企業のCSR戦略について説明できる/資料の再視聴(80分)
第13回	アパレル産業のビジネスモデル / 次世代型デザイナーズアパレル成功の鍵 予習：最近のデザイナーズアパレルについて調べておく(120分) 復習：SACAIの事例に基づきデザイナーズアパレルが成功するファクターについて説明できる/資料の再視聴(80分)
第14回	ファッション業界のあり方、2030年の未来予測に関する考察 予習：ファッション業界の未来についてネットで調べておく(120分) 復習：業界の方向性について説明できる/資料の再視聴(80分)

成績評価方法・基準	対面授業、オンライン(オンデマンド含む)授業に関わらず、以下の評価手法を用いる。 評価は、ファションビジネスの現場で働く際に必要なマネジメント関連知識と応用スキルの習得という科目到達目標に対して、 平常点（小課題の提出、積極的に取り組む姿勢、復習などの努力等）42%、演習課題18%、定期試験の結果40%を総合的に評価する。 経営戦略演習-課題は提出後、必要に応じてフィードバックを行う。

参考書	「この1冊ですべてわかる 経営戦略の基本 」日本総合研究所　経営戦略研究会著　日本実業出版社
その他	授業の内容に関して疑問や質問等がある場合は、nguchi@edogawa-u.ac.jp (中口エドメールアドレス)に連絡すること。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	鐘紡株式会社(ファッション研究所)にて、国内外トレンド分析・発信業務に従事。その後、マーケティングディレクターとして丸井、三井物産、ワコールなど様々なファッション関連企業のブランドプロデュース業務に携わる。2007年、ファッションプロデュース会社の代表取締役に就任し、経営管理の実務を担当。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習）／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(1)／社会学部(2)／経営社会学科(1)／経営社会学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	杉山　敏啓(T-0101)				履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	金融ビジネス基礎I/金融基礎I				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	金融の基礎的な理解力を身につけます。						
授業の概要	金融は企業経営や個人生活において重要な役割を果たしています。金融ビジネスは産業としても重要な位置づけであり、日本を含む各国では情報テクノロジーを活用することで、金融ビジネスを未来の成長産業として育成しようと期待を寄せています。金融の面白さに触れながら、現代の金融ビジネスの理論と現実の両面から分かりやすく解説します。金融ビジネス基礎Iは金融サービスを提供する金融機関の種類や業務内容の観点から学習を進めます。金融ビジネス基礎Iは金融サービスを提供する金融機関の種類や業務内容の観点から学習を進めます。（本講義はポータルサイトとしてエドクラテスを使用し、講義レジュメの配布、授業内小テスト実施などは原則エドクラテスにて行います。オンライン授業実施時にはGoogle DriveおよびGoogle Meetを使用します。）						
到達目標	この科目は経営社会学科のディプロマ・ポリシー「販売、営業、財務、経営スキルを修得し、創造的なアイディアを実現する力を持っている」に即し、将来的に金融ビジネスの最前線で活躍できるような基礎力と応用力を養うことを意図して進行します。金融ビジネスについての学習を通じて、金融経済社会で用いられる主要用語を理解し、説明する基礎力を身につけることを目的とします。金融ビジネス基礎Iは金融サービスを提供する金融機関サイドの観点から学習を進めます。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	金融の基礎 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第2回	金融システムの全体像 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第3回	金融機関の種類と機能 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第4回	日本銀行と金融政策 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第5回	銀行の種類と役割 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第6回	決済・預金・貸出 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第7回	信用創造 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第8回	協同組織金融機関 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第9回	政策金融機関 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第10回	証券会社 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第11回	保険会社 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第12回	ノンバンク・その他金融機関 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第13回	消費者向けノンバンク 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度）

	復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第14回	金融ビジネスの最先端とFinTech（フィンテック） 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）

成績評価方法・基準	対面授業の場合：期末試験50%、授業内小テスト50%の比重で成績評価を行います。 オンライン授業の場合：期末試験50%、授業内小テスト50%の比重で成績評価を行います。 試験では金融ビジネスや金融指標に関する主要キーワードの理解度に重点を置いて確認します。

参考書	改訂版 金融の基本教科書　　杉山敏啓編著 日本能率協会マネジメントセンター ISBN-10:4820747231
その他	講義レジュメを授業にて配布しますが、これに加えて筆記用具、ノートを準備してください。金融に関するニュースなどに、興味関心を持って受講されることを推奨します。 【連絡先】sugiyama@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	都市銀行系シンクタンクで金融機関マネジメントに関する研究開発・コンサルティングに25年以上従事するとともに、都市銀行への出向、京都市会計室金融専門員の兼務歴任等、金融ビジネスの提供や利用に関連する幅広い実務経験を有する。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／経営社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	杉山　敏啓(T-0101)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	金融ビジネス基礎II/金融基礎II				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	金融ビジネス基礎IIは金融サービスの利用者サイドの観点から学習を進めます。						
授業の概要	金融は企業経営や個人生活において重要な役割を果たしています。金融ビジネスは産業としても重要な位置づけであり、日本を含む各国では情報テクノロジーを活用することで、金融ビジネスを未来の成長産業として育成しようと期待を寄せています。金融の面白さに触れながら、現代の金融ビジネスの理論と現実の両面から分かりやすく解説します。金融ビジネス基礎IIは金融サービスの利用者サイドの観点から学習を進めます。（本講義はポータルサイトとしてエドクラテスを使用し、講義レジュメの配布、授業内小テスト実施などは原則エドクラテスにて行います。オンライン授業実施時にはGoogle DriveおよびGoogle Meetを使用します。）						
到達目標	この科目は経営社会学科のディプロマ・ポリシー「販売、営業、財務、経営スキルを修得し、創造的なアイディアを実現する力を持っている」に即し、将来的に金融ビジネスの最前線で活躍できるような基礎力と応用力を養うことを意図して進行します。金融ビジネスについての学習を通じて、金融経済社会で用いられる主要用語を理解し、説明する基礎力を身につけることを目的とします。金融ビジネス基礎Iは金融サービスを提供する金融機関サイドの観点から学習を進めます。 金融ビジネス基礎IIは金融サービスの利用者サイドの観点から学習を進めます。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	利用者から見た金融ビジネス 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第2回	個人にとっての金融 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第3回	パーソナルファイナンス(1)資金運用 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第4回	パーソナルファイナンス(2)住宅ローン 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第5回	パーソナルファイナンス(3)その他ローン 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第6回	パーソナルファイナンス(4)リスクマネジメント 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第7回	企業にとっての金融 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第8回	コーポレートファイナンス(1)企業財務と金融 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第9回	コーポレートファイナンス(2)資金調達 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第10回	公共にとっての金融 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第11回	金融市場の種類と役割 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第12回	株式の種類と役割 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第13回	債券の種類と役割 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度）

	復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第14回	デリバティブ取引 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）

成績評価方法・基準	対面授業の場合：期末試験50%、授業内小テスト50%の比重で成績評価を行います。 オンライン授業の場合：期末試験50%、授業内小テスト50%の比重で成績評価を行います。 試験では金融ビジネスや金融指標に関する主要キーワードの理解度に重点を置いて確認します。

参考書	改訂版 金融の基本教科書　　杉山敏啓編著 日本能率協会マネジメントセンター ISBN-10:4820747231
その他	講義レジュメを授業にて配布しますが、これに加えて筆記用具、ノートを準備してください。金融に関するニュースなどに、興味関心を持って受講されることを推奨します。 【連絡先】sugiyama@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	都市銀行系シンクタンクで金融機関マネジメントに関する研究開発・コンサルティングに25年以上従事するとともに、都市銀行への出向、京都市会計室金融専門員の兼務歴任等、金融ビジネスの提供や利用に関連する幅広い実務経験を有する。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	該当なし
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／経営社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	杉山　敏啓(T-0101)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	コーポレートファイナンスI/コーポレイトＦＩ				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	企業経営をファイナンスの側面から理解する力を身につけます。						
授業の概要	企業が経営を行うためにはヒト・モノ・カネを用いる必要があります。コーポレートファイナンスは資金（おカネ）の流れという視点から企業経営を分析し、投資家の期待を充足する企業経営成果を挙げることの重要性を理解します。コーポレートファイナンスに関する主要用語を理解するとともに、企業の経営状態や経営戦略を、財務・金融の視点から理解する力を身につけます。コーポレートファイナンスIは企業の財務諸表と株価情報を活用した株式価値評価に重点を置いた学習を進めます。（本講義はポータルサイトとしてエドクラテスを使用し、講義レジュメの配布、授業内小テスト実施などは原則エドクラテスにて行います。オンライン授業実施時にはGoogle DriveおよびGoogle Meetを使用します。）						
到達目標	この科目は経営社会学科のディプロマ・ポリシー「販売、営業、財務、経営スキルを修得し、創造的なアイディアを実現する力を持っている」に即し、将来的に金融ビジネスの最前線で活躍できるような基礎力と応用力を養うことを意図して進行します。企業経営をファイナンス（財務・金融）の視点から理解し、企業経営について説明することができる基礎力を身につけることを目的とします。コーポレートファイナンスIは株式価値評価を巡る理論と手法に重点を置いた学習を進めます。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	企業経営とファイナンス 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第2回	企業の資金調達手段 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第3回	企業価値経営とキャッシュフロー 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第4回	企業の財務分析手法(1)財務諸表と財務指標 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第5回	企業の財務分析手法(2)企業の資本構成 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第6回	企業の財務分析手法(3)企業の資本コスト 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第7回	企業の財務分析手法(4)財務分析の実践 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第8回	株式評価指標(1)市場全体の評価 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第9回	株式評価指標(2)個別銘柄の評価 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第10回	リターンとリスク(1)収益率の評価 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第11回	リターンとリスク(2)収益率の変動リスクの評価 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第12回	リターンとリスク(3)ポートフォリオのリスク 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）

第13回	リターンとリスク(4)資本資産価格モデル 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第14回	リターンとリスク(5)ノートPCを用いた演習 予習：ＰＣ演習用ファイルを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえてＰＣ演習用ファイル等を復習する（100分程度）

成績評価方法・基準	対面授業の場合：期末試験50%、授業内小テスト30%、PC演習20%の比重で成績評価を行います。 オンライン授業の場合：期末試験50%、授業内小テスト30%、PC演習20%の比重で成績評価を行います。 試験では企業ファイナンスに関する主要キーワードの理解度、主要な企業分析指標の活用のための理解度に重点を置いて確認します。

参考書	コーポレートファイナンス入門〈第2版〉（日経文庫） 砂川伸幸 日本経済新聞出版社 ISBN-10:4532113687
その他	講義レジュメを授業にて配布しますが、これに加えて筆記用具、ノート等を準備してください。ノートPCの使用を指定する回では各自ノートPCを必ず準備してください。PC演習後には作業成果の提出を義務付けます。コーポレートファイナンスI,IIは前後期続けて履修することを前提に講義を進めます。 【連絡先】sugiyama@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	都市銀行系シンクタンクで金融機関マネジメントに関する研究開発・コンサルティングに25年以上従事。コーポレートファイナンス分野の実務的資格である日本証券アナリスト協会検定会員（認定アナリスト）を取得・保有。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(4)／経営社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	杉山　敏啓(T-0101)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	コーポレートファイナンスII/コーポレイトＦII				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	経2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	企業が行うプロジェクト価値をファイナンスの側面から理解する力を身につけます。						
授業の概要	企業が経営を行うためにはヒト・モノ・カネを用いる必要があります。コーポレートファイナンスは資金（おカネ）の流れという視点から企業経営を分析し、投資家の期待を充足する企業経営成果を挙げることの重要性を理解します。コーポレートファイナンスに関する主要用語を理解するとともに、企業の経営状態や経営戦略を、財務・金融の視点から理解する力を身につけます。コーポレートファイナンスIIは企業の投資プロジェクトについて時間価値を考慮した価値評価手法に重点を置いた学習を進めます。（本講義はポータルサイトとしてエドクラテスを使用し、講義レジュメの配布、授業内小テスト実施などは原則エドクラテスにて行います。オンライン授業実施時にはGoogle DriveおよびGoogle Meetを使用します。）						
到達目標	この科目は経営社会学科のディプロマ・ポリシー「販売、営業、財務、経営スキルを修得し、創造的なアイディアを実現する力を持っている」に即し、将来的に金融ビジネスの最前線で活躍できるような基礎力と応用力を養うことを意図して進行します。企業経営をファイナンス（財務・金融）の視点から理解し、企業経営について説明することができる基礎力を身につけることを目的とします。コーポレートファイナンスIIはNPV（Net Present Value）によるプロジェクト価値評価手法に重点を置いた学習を進めます。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	企業価値評価と投資判断 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第2回	キャッシュフローの時間価値 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第3回	債券の現在価値評価 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第4回	株式の現在価値評価 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第5回	株式価値評価の数値例 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第6回	エンタープライズDCF法 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第7回	エンタープライズDCF法の実践 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第8回	NPVによる投資判断 予習：ＰＣ演習用ファイルを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえてＰＣ演習用ファイル等を復習する（100分程度）
第9回	NPVによる投資判断・現在価値評価のPC演習 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第10回	デリバティブ：先物・スワップ 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第11回	デリバティブ：オプション 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第12回	オプション価格決定モデル 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）

第13回	リアルオプション評価 予習：講義レジュメを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえて講義レジュメ等を復習する（100分程度）
第14回	リアルオプション評価のケーススタディ・企業価値評価のPC演習 予習：ＰＣ演習用ファイルを予習し不明な用語等を調査する（100分程度） 復習：講義内容を踏まえてＰＣ演習用ファイル等を復習する（100分程度）

成績評価方法・基準	対面授業の場合：期末試験50%、授業内小テスト30%、PC演習20%の比重で成績評価を行います。 オンライン授業の場合：期末試験50%、授業内小テスト30%、PC演習20%の比重で成績評価を行います。 試験ではDCF法によるプロジェクト価値評価の理解度と応用力に重点を置いて確認します。

参考書	コーポレートファイナンス入門〈第2版〉（日経文庫） 砂川伸幸 日本経済新聞出版社 ISBN-10:4532113687
その他	講義レジュメを授業にて配布しますが、これに加えて筆記用具、ノート等を準備してください。ノートPCの使用を指定する回では各自ノートPCを必ず準備してください。PC演習後には作業成果の提出を義務付けます。コーポレートファイナンスI,IIは前後期続けて履修することを前提に講義を進めます。 【連絡先】sugiyama@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	都市銀行系シンクタンクで金融機関マネジメントに関する研究開発・コンサルティングに25年以上従事。コーポレートファイナンス分野の実務的資格である日本証券アナリスト協会検定会員（認定アナリスト）を取得・保有。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	社会学部(2)／社会学部(4)／経営社会学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	神田　洋(T-0901)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	スポーツジャーナリズム論I				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	近代競技スポーツとメディア						
授業の概要	近代競技スポーツの誕生、伝播にはメディアの存在が欠かせなかった。スポーツとメディアのかかわりから、現代社会の普遍的な問題を探る。 スポーツの歴史を学ぶことでジャーナリズム的視点を養う。またジャーナリズム的視点から現代スポーツを読み解く。日本と英国、米国のスポーツを主な題材とする。 課題提出はGoogle Classroom、オンライン授業はGoogle Meetを使用						
到達目標	ジャーナリズムとは何か、スポーツとは何か、漠然としたイメージを具体化できるよう論を組み立てる。地域や歴史の特性に注目しながら、気になるスポーツニュースの要点を掘り下げる力を身につける。メディアコミュニケーション学部の「知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	予習、復習は毎回各100分程度。 オリエンテーション スポーツとは何か。スポーツを定義するときに考えるべき事柄を整理する。 復習：近代競技スポーツの定義を説明できるようにする。
第2回	〝アメリカンスポーツ〟の起源 ベースボールは本当に米国で生まれたのか。ベースボール誕生の歴史を紐解き、メディアが果たした役割を学ぶ。 予習：18世紀の米国で広く読まれた「ポケットブック」について調べる。 復習：ベースボール誕生とメディアのかかわりについて説明できるようにする。
第3回	野球殿堂の嘘 野球殿堂はなぜ偽りの情報を基に建てられたか。野球が聖地を必要とした理由をメディアの歴史も踏まえて学ぶ。 予習：A.G.スポルディングについて調べる。 復習：米国野球殿堂誕生の歴史について説明できるようにする。
第4回	競技スポーツの誕生 フットボール黎明期を知ることで、近代競技スポーツ誕生につながったメディアの影響を学ぶ。 予習：モブフットボール、マスフットボールについて調べる。 復習：サッカーの語源について説明できるようにする。
第5回	競技場が示すもの ルースが建てた家？　野球場はなぜ広さが違ってもいいのか。場からルールを考える。 予習：ベーブ・ルースの生涯について調べる。 復習：野球規則のフィールド規定について説明できるようにする。
第6回	スポーツルール考① 平等ってなんだ？　英国と日本の「平等」意識の違いからスポーツ文化について考察する。 予習：ボクシング軽量級の階級ごとの体重を調べる。 復習：日英両国のスポーツにおける平等の考え方を説明できるようにする。
第7回	スポーツルール考② スポーツをスポーツたらしめるルールとは。日常生活に解け込んだ非日常にとしてのスポーツとスポーツ報道を解釈する。 予習：競技スポーツを街中で行ったら違法となるプレーをリストアップする。 復習：一般社会の法と競技ルールの違いを説明できるようにする。
第8回	スポーツジャーナリズムの隆盛 1920年代の米国でスポーツジャーナリズムの発展につながった社会的背景を学ぶ 予習：ジャック・デンプシーについて調べる 復習：大量消費社会のメディアと偶像について説明できるようする。
第9回	日本のスポーツジャーナリズム黎明期 天狗倶楽部の面々。日本のスポーツジャーナリズム誕生の過程をたどる 予習：安部磯雄について調べる 復習：与えられた明治期の記事を読む。
第10回	スポーツ、日本上陸 独自ルールを生まない国。文明開化とスポーツ普及の関連を学ぶ。 予習：明治期の記事について問いに答えられるようにする。 復習：欧州から競技スポーツを輸入した日米の違いを説明できるようにする。

第11回	甲子園という文化 野球はなぜインターハイに参加しないか。異例尽くしの夏の祭典からスポーツ文化を考える。 予習：甲子園大会の始まりについて調べる 復習：甲子園大会と「野球害毒論」の関係について説明できるようにする。
第12回	プロ野球から考えるスポーツジャーナリズム ナンバー１スポーツとメディアの関係、その功罪について歴史を中心に学ぶ。 予習：プロ野球の国際大会出場について調べる 復習：プロ野球の始まりとメディアの関係について説明できるようにする。
第13回	スポーツと体育 体育の問題とスポーツの問題を分けて考える。 予習：なぜ体育で多くの競技を経験するのか自分なりの意見をまとめる。 復習：体育改善案を述べられるようにする。
第14回	前期総括 予習：前期のノートを見返す。 復習：総括を基に各回の小テストを横断する「オンラインまとめテスト」に臨む。

成績評価方法・基準	質問への口頭での回答やコメントシート記入など批判的考察を求める講義参加42%、スポーツとメディアの関係についての専門知識を問う授業内小テスト58%を合計して評価する。対面でもオンラインでも上記の基準は変わらず。

参考書	中村敏雄『オフサイドはなぜ反則か』平凡社 内田隆三『ベースボールの夢』岩波新書 杉本厚夫『映画に学ぶスポーツ社会学』世界思想社 黒田勇編著『メディアスポーツへの招待』ミネルヴァ書房 坂上康博ら『スポーツの世界史』一色出版 J・コークリー、P・ドネリー『現代スポーツの社会学』南窓社
その他	講義内容が多岐にわたるため、教科書は使用しない。 学生からの連絡はkanda@edogawa-u.ac.jpで受け付け
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	通信社で記者、デスクとして25年間勤務し、主にプロ野球と大リーグを担当した。スポーツジャーナリズムの現場の状況をふまえて問題点や歴史を論じる。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習）／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(3)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(5)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／マス・コミュニケーション学科(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	神田　洋(T-0901)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	スポーツジャーナリズム論II				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	現代スポーツの諸問題						
授業の概要	現代スポーツが抱える問題を主に報道から分析し、現代社会について考察する。 スポーツの歴史を検証することでジャーナリズム的視点を養う。またジャーナリズム的視点からスポーツを読み解く。日本と英国、米国のスポーツ報道を主な題材とする。 課題提出はGoogle Classroom、オンライン授業はGoogle Meetを使用する						
到達目標	ジャーナリズムとは何か、スポーツとは何か、大きな定義を個別の事象の中に見いだせるよう論を組み立てる。各地域や歴史の特性を理解することで、現代日本のスポーツニュースを読み解く力を身につける。メディアコミュニケーション学部の「知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	【全般】予習、復習は毎回それぞれ100分程度。 オリエンテーション スポーツとメディア。スポーツジャーナリズム論Ｉを未履修の学生は基礎事項を学び、履修者は前期の内容を後期の導入にできるよう確認する。 復習：前期の講義概要を説明できるようにする。
第2回	プロスポーツの隆盛とアマチュアリズム 忘れられた英雄ソープ。アマチュアリズムが体現したものを検証する。 予習：ジム・ソープについて調べる。 復習：アマチュアリズムの歴史について説明できるようにする。
第3回	どうなる東京五輪 「呪われた五輪」の問題を振り返り、五輪の歴史と未来を考察する。 予習：2020東京五輪の予算額について調べる 復習：五輪のレガシーについて説明できるようにする。
第4回	どうなる東京パラリンピック スポーツの新たな可能性。各大会のレガシーからパラリンピックの意義を学ぶ。 予習：パラリンピック記録がオリンピックに迫る種目について調べる。 復習：スポーツとハンディキャップの思想について説明できるようにする。
第5回	スポーツ中継と金の歴史 1984ロサンゼルス五輪は何を変えたのか。集金システムとしてのメディアについて考察する。 予習：ピーター・ユベロスについて調べる。 復習：スポーツのプロ化について説明できるようにする。
第6回	スポーツと金 Ｊリーグかプロ野球か。閉鎖型リーグと開放型リーグの長短を学ぶ。 予習：なぜJリーグにドラフト会議がないのかを調べる。 復習：日本プロスポーツの２大リーグの特徴を説明できるようにする。
第7回	スポーツとジェンダー 女性アスリートはどう描かれてきたか。ステレオタイプと解放、タイトルIX。 予習：タイトルIXについて調べる。 復習：女性の競技スポーツ参加の歴史について説明できるようにする
第8回	スポーツと人種 ニグロリーグが示すもの。米国メディアの黒人スポーツ報道を時代に沿って検証する。 予習：ジョシュ・ギブソンについて調べる。 復習：米国の黒人排除、英国の下層階級排除というスポーツ界に起きたことを説明できるようにする。
第9回	薬物問題から考える「逸脱」① 米国はなぜマグワイアを許したか。薬物問題報道からドーピングの定義を考察する。 予習：1998年のマグワイアについて調べる。 復習：ドーピングの定義について説明できるようにする。
第10回	薬物問題から考える「逸脱」② 米国はなぜマグワイアに怒ったか。薬物問題からスポーツにおける「逸脱」のメカニズムを考える。 予習：ホセ・カンセコについて調べる。 復習：スポーツ選手の逸脱行為について説明できるようにする。

第11回	大学運動部は変われるか NCAAとUNIVAS。日本の大学スポーツが目指す姿を検討する。 予習：Final Fourについて調べる。 復習：大学スポーツのビジネス化の功罪について説明できるようにする。
第12回	「みる」スポーツと「する」スポーツ 日本における「みる」スポーツの歴史を紐解き、課題を考察する。 予習：インブリー事件について調べる。 復習：応援団の役割について説明できるようにする。
第13回	発言するアスリート 大坂なおみらの発言を通じ、アスリートの社会運動の歴史について学び、SNS時代の新たな形を考える。 予習：コリン・キャパニックについて調べる。 復習：スポーツ選手の社会運動の歴史について説明できるようにする。
第14回	後期総括 予習：後期のノートを読む。 復習：総括を基に各回を横断するオンラインの「まとめテスト」を受験する。

成績評価方法・基準	質問への口頭での回答やコメントシート記入など批判的考察を求める講義参加42%、スポーツとメディアの関係についての専門知識を問う小テスト58%を合計して評価する。対面でもオンラインでも上記の基準は変わらず。

参考書	中村敏雄『オフサイドはなぜ反則か』平凡社 J・コークリー、P・ドネリー『現代スポーツの社会学』南窓社 杉本厚夫『映画に学ぶスポーツ社会学』世界思想社 アンドリュー・ジンバリスト『オリンピック経済幻想論』ブックマン社 アンドリュー・ジンバリスト『60億円を投資できるMLBのからくり』ベースボールマガジン社 宮田由紀夫『暴走するアメリカ大学スポーツの経済学』東信堂
その他	講義内容が多岐にわたるため、教科書は使用しない。 学生からの連絡はkanda@edogawa-u.ac.jpで受け付け
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	通信社で記者、デスクとして25年間勤務し、主にプロ野球と大リーグを担当した。スポーツジャーナリズムの現場の状況をふまえて問題点や歴史を論じる。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習）／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(3)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(5)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／マス・コミュニケーション学科(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	神田　洋(T-0901)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	スポーツ・ライター、キャスター論I				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題							
授業の概要	スポーツを見ること、文章で表現することについて具体的事例を基に学ぶ。スポーツを起点にし、スポーツにとどまらないライター論へと考察を広げる。 課題提出はGoogle Classroom、オンライン授業はGoogle Meetを使用する。						
到達目標	ライターの基本動作について知識を得て、小リポートなどで実践を試みる。また著名作品を分析し、作品を支える視点を学ぶ。メディアコミュニケーション学部の「自己の意見を適切に表現し、他者に配慮しながら積極的にコミュニケーションできる」というディプロマ・ポリシーに結びつく科目。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	予習、復習はそれぞれ100分程度ずつ オリエンテーション 記者の仕事に最も必要なものは、という疑問を突き詰める。 復習：ジャーナリスティックな文章について説明できるようにする。
第2回	質問がライターの根幹 質問ゲーム①質問づくりと質問の分類 予習：質問リスト作り 復習：質問内容の検討
第3回	質問ゲーム② 前回の反省を基に質問ゲームの質を高める 予習：質問リスト作り 復習：質問内容の検討
第4回	新聞のスポーツ面を読む スポーツ面の構成と記事の決まり事を学ぶ 予習：注目記事のピックアップ 復習：運動記事の種類を説明できるようにする
第5回	スポーツライティングの特性 新聞の面による記事の違いを分析する 予習：新聞面比較 復習：一般紙とスポーツ紙のポイントを説明できるようにする
第6回	君がデスクだ① マスメディアのスポーツ報道の何に違和感を覚えるのか。学生が選ぶ「ここがおかしいスポーツ記事」。 予習：疑問に思った記事のリストアップ 復習：記事のリライトを試みる
第7回	君がデスクだ② 違和感を覚えた記事を分析し、リライトする。「私ならこう書く」。 予習：記事のリライト 復習：記事講評をふまえた見直し
第8回	スマホ時代のスポーツ記事 一つ一つの記事がスマホの小画面で分断される分断される時代の執筆法について考察する。ラインから考える文章論。 予習：スマホで読んで意味が分かりにくい記事をリストアップ 復習：４回目との関連で、スポーツ面構成の新しい流れを考察する
第9回	記録の世界 スコアシートから見えるもの。競技を記録する意味について考える。 予習：「好きな記録」のリストアップ 復習：記録と娯楽について説明できるようにする
第10回	新聞記事比較① マスコミは画一的か「独自ダネ」の検討 予習：注目記事のピックアップ 復習：記事の内容整理
第11回	新聞記事比較② エンターテーナーは誰だ。読みやすい記事の読みやすさ、読みにくい記事の読みにくさを分析する。

	予習：注目記事のピックアップ 復習：記事の内容整理
第12回	速報と続報 ニュースは育つ。速報から解説への流れを野球賭博報道を例に紐解く。 予習：野球賭博事件について調べる 復習：現場の速報対応について説明できるようにする
第13回	書くことの意味 どのような記者が不祥事を起こすのか。盗作、ねつ造、不祥事から学ぶ。 予習：新聞記者の編集にまつわる不祥事について調べる 復習：個別の案件に共通する問題を説明できるようにする
第14回	前期総括 予習：各回の復習課題ができているか確認する 復習：提出物への総合評価を基に前期の学びを見直す

成績評価方法・基準	事前の新聞記事提出や質問への口頭での回答など講義参加42%、課題や授業内のワークシート58%を合計して評価する。対面でもオンラインでも上記の基準は変わらず。

参考書	ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンスティール『ジャーナリズムの原則』日本経済評論社 森田浩之『スポーツニュースは怖い　刷り込まれる＜日本人＞』生活人新書
その他	内容が多岐にわたるため教科書はなし。 学生からの連絡はkanda@edogawa-u.ac.jpで受け付け
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	通信社で記者、デスクとして25年間勤務し、主にプロ野球と大リーグを担当。報道現場の動きや記者の基本動作をふまえて問題点を論じる。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習）／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(3)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(5)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／マス・コミュニケーション学科(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	本多悟(D-0601)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	出版論I				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	出版の歴史、出版社の活動を学び、出版の未来を探る						
授業の概要	出版とはなにかという本質的なところからはじめ、印刷以前、以降、そして現在のデジタル化時代まで、おもに日本の出版活動を世相に関連させながら学ぶ。 また出版社各社の歩みと現況を深く理解し、出版業界が今後進むべき道を考察する。 ※対面でもオンラインでも授業内容は同一。 この科目では、資料の配付等では原則としてエドクラテスを使用し、必要に応じてGoogle Classroom を併用する。 オンライン授業実施時の動画配信は、Google Meet を使用する。						
到達目標	出版形式と出版コンテンツの変容を社会背景を含めて理解できるようになる。 さらに、デジタル化、国際化している出版産業の将来像を考察するための基礎知識と考え方を習得する。 この授業はおもに「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」（メディアコミュニケーション学部）と「新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている」（マス・コミュニケーション学科）というディプロマ・ポリシーを到達目標とする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス。 出版とはなにか。出版社とはなにか 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第2回	出版の歴史① 古代から近代 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第3回	出版の歴史② 近代から現代 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第4回	出版業界および出版社の現況 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第5回	出版社紹介① 講談社×小学館 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第6回	出版社紹介② 集英社×KADOKAWA 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第7回	出版社紹介③ 文藝春秋×新潮社 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第8回	出版社紹介④ 光文社×マガジンハウス 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第9回	出版社紹介⑤ その他個性的な出版社 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第10回	出版社から書店、読者へ…出版流通の現況

	予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第11回	出版社の広告ビジネス、ブランドビジネス、ECビジネス、イベントビジネス 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第12回	出版社のライツビジネス、国際ビジネス 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第13回	出版物の著作権と海賊版との闘い 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第14回	未来の出版業界と出版社 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）

成績評価方法・基準	期末リポート50%、平常点（履修態度、課題提出など）50% 出版形式と出版コンテンツの変容を社会背景を含めて理解しているかどうかをおもな評価基準とする。 対面でもオンラインでも評価基準は同一。 秀　：　評価点数が90点以上で、本講義内容について優れた知識と深い理解力とを身につけている。 優　：　評価点数が80点から89点で、本講義内容について良好な知識と深い理解力とを身につけている。 良　：　評価点数が70点から79点で、本講義内容についての知識と理解力にやや不足がある。 可　：　評価点数が60点から69点で、本講義内容についての知識と理解力が不足している。 不可：　学修態度に問題があり、評価点数が60点に満たない。さらに、本講義内容についての知識と理解力が明らかに不足している。

参考書	川井良介編『出版メディア入門 第2版』日本評論社　2012年　2970円　ISBN-10: 4535586160 藤竹 暁 竹下俊郎編著『図説 日本のメディア [新版]―伝統メディアはネットでどう変わるか』NHK出版　2018年　1650円　ISBN-10:4140912537 魚住 昭著『出版と権力 講談社と野間家の一一〇年』講談社　2021年　3850円　ISBN-10:4065129389 長尾三郎著『週刊誌血風録』講談社　2004年　ISBN-10:4062749432 元木昌彦著『野垂れ死に　ある講談社・雑誌編集者の回想』現代書館　2020年　1870円　ISBN-10:4768458785 柳澤 健著『2016年の週刊文春』光文社　2020年　2530円　ISBN-10:4334952143 森 功著『鬼才 伝説の編集人 齋藤十一』幻冬舎　2021年　1980円　ISBN-10:4344037286 新海 均著『カッパ・ブックスの時代』河出書房新社　2014年　ISBN-10:4309624596 赤木洋一著『「アンアン」1970』平凡社　2007年　740円　ISBN-10: 4582853587 椎根 和著『popeye物語』新潮社　2008年　1575円　ISBN-10: 4103066717 阪本 博著『『平凡』の時代』昭和堂　2008年　ISBN-10: 481220822X 橋川幸夫著『ロッキング・オンの時代』晶文社　2016年　1760円　ISBN-10: 4794969406 『俺たちのプロレス』編集部編『『週プロ』熱狂とその正体 活字プロレスとは何だったのか?』双葉社　2019年　1650円　ISBN-10:457531420X 難波功士著『創刊の社会史 』筑摩書房　2009年　ISBN-10: 4480064559 富川淳子著『ファッション誌をひもとく 改訂版』北樹出版　2017年　1836円　ISBN-10: 4779305411 吉田則昭編『雑誌メディアの文化史 増補版』森話社　2017年　ISBN-10: 486405116X 植田康夫著『雑誌は見ていた。』水曜社　2009年　2090円　ISBN-10: 488065225 永江 朗著『私は本屋が好きでした』太郎次郎社エディタス　2019年　1760円　ISBN-10:4811808398 福井健策著『18歳の著作権入門』筑摩書房　2015年　902円　ISBN-10:4480689281 ほか、授業中にも紹介する。
その他	授業内容などへの質問は、授業内で適宜フィードバックする。 授業にゲストを招くことも想定しているため、スケジュール調整により、シラバスと授業内容がずれることがありうる。 本科目だけでも受講はできるが、出版論Ｉと出版論IIの両方で出版についての全体像がわかるようになっている。 出版論IIも受講することを推奨する。 連絡先のメールアドレスは、s-honda@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	光文社にて、『週刊宝石』、『FLASH』、『女性自身』、ムック、単行本、写真集などの編集を担当。 また、広告営業、広報、書籍・雑誌のプロモーションなど、出版ビジネスにかかわるさまざまな業務に携わってきた。 出版業界の最新動向も授業に反映させていく。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート

ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	本多悟(D-0601)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	出版論II				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	編集者の仕事を学び、編集者の未来を探る						
授業の概要	多岐にわたるテーマを取り扱い、著作者の表現活動を支える編集者の仕事に焦点をあて講義をすすめる。 活字中心だった時代から、デジタル化が進行する現時点に至る役割の変化を学び、出版文化の担い手である編集者が今後進むべき道を考察する。 ※対面でもオンラインでも授業内容に変更は同一。 この科目では、資料の配付等では原則としてエドクラテスを使用し、必要に応じてGoogle Classroom を併用する。 オンライン授業実施時の動画配信は、Google Meet を使用する。						
到達目標	編集者の仕事を社会背景を含めて理解できるようになる。 さらに、デジタル化、国際化している出版産業の将来像を考察するための基礎知識と考え方を習得する。 この授業はおもに「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」（メディアコミュニケーション学部）と「新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている」（マス・コミュニケーション学科）というディプロマ・ポリシーを到達目標とする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス　編集者の仕事・役割とはなにか 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第2回	編集者の仕事①　週刊誌編集者 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第3回	編集者の仕事②　コミック編集者 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第4回	編集者の仕事③　ファッション誌、ライフスタイル誌編集者 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第5回	編集者の仕事④　文芸編集者 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第6回	編集者の仕事⑤　ビジネス書、実用書編集者 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第7回	編集者の仕事⑥　児童書、児童誌、図鑑編集者 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第8回	編集者の仕事⑦　芸能誌、グラビア誌編集者 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第9回	編集者の仕事⑧　Web編集者 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第10回	編集者の仕事⑨　出版物、Web以外の編集事例紹介

	予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第11回	編集者の仕事⑩　実際に編集企画を立案、プレゼンテーション① 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第12回	編集者の仕事⑪　実際に編集企画を立案、プレゼンテーション② 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第13回	編集者の仕事⑫　実際に編集企画を立案、プレゼンテーション③ 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）
第14回	編集者の仕事⑬　未来の編集者 予習：シラバスに沿って、事前に参考図書の該当部分を読んでおく。（100分） 復習：授業ノートを読んで、理解が不足しているところを参考図書やインターネットで調べる。（100分）

成績評価方法・基準	期末リポート50%、平常点（履修態度、課題提出など）50% 編集者の仕事および出版活動と社会との関連を理解しているかどうかをおもな評価基準とする。 対面でもオンラインでも評価基準は同一。 秀　：　評価点数が90点以上で、本講義内容について優れた知識と深い理解力とを身につけている。 優　：　評価点数が80点から89点で、本講義内容について良好な知識と深い理解力とを身につけている。 良　：　評価点数が70点から79点で、本講義内容についての知識と理解力にやや不足がある。 可　：　評価点数が60点から69点で、本講義内容についての知識と理解力が不足している。 不可：　学修態度に問題があり、評価点数が60点に満たない。さらに、本講義内容についての知識と理解力が明らかに不足している。

参考書	柳澤 健著『2016年の週刊文春』光文社　2020年　2530円　ISBN-10:4334952143 新谷 学著『「週刊文春」編集長の仕事術』ダイヤモンド社　2017年　1540円　ISBN-10:4478102090 都築響一著『圏外編集者』朝日出版社　2015年　1815円　ISBN-10:4255008949 松田紀子著『悩んでも10秒 考えすぎず、まず動く！突破型編集者の仕事術 』集英社　2019年　1500円　ISBN-10:408788029X 箕輪厚介著『死ぬこと以外かすり傷』マガジンハウス　2018年　1340円　ISBN-10:4838730152 マスナビ編集部編『就活でどうしても会いたい編集者20 人へのOB・OG訪本』宣伝会議　2016年　1540円　ISBN-10:4883353702 片山一行著『職業としての「編集者」』H&I　2015年　1980円　ISBN-10:4908110018 見城 徹著『編集者という病い』集英社　2009年　748円　ISBN-10:4087464180 花田紀凱著『編集者！』WAC　2005年　ISBN-10:489831080X 仲俣暁生＋フィルムアート社編集部編『編集進化論　―editするのは誰か？』フィルムアート社　2010年　ISBN-10:4845910543 安原 顕著『決定版「編集者」の仕事』マガジンハウス　1999年　ISBN-10:4838710739 櫻井秀勲著『戦後名編集者列伝　売れる本づくりを実践した鬼才たち』編書房　2003年　ISBN-10:4434030116 ほか、授業中にも紹介する。
その他	授業内容などへの質問は、授業内で適宜フィードバックする。 授業にゲストを招くことも想定しているため、スケジュール調整により、シラバスと授業内容がずれることがありうる。 本科目だけでも受講はできるが、出版論Ⅰと出版論Ⅱの両方で出版についての全体像がわかるようになっている。 出版論Ⅰも受講することを推奨する。 連絡先のメールアドレスは、s-honda@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	光文社にて、『週刊宝石』、『FLASH』、『女性自身』、ムック、単行本、写真集などの編集を担当。 また、広告営業、広報、書籍・雑誌のプロモーションなど、出版ビジネスにかかわるさまざまな業務に携わってきた。 出版業界の最新動向も授業に反映させていく。
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	秦野　るり子(D-0901)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	国際報道論I				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	国際情勢とメディアの役割						
授業の概要	国際情勢の現状とその背景を学ぶ。メディアが国際政治に果たした役割をあわせて検証する。国際情勢に応じて、講義テーマの順番等を変更することがあり得る。 授業はGoogle Meet を使用してオンラインで行う。資料配付はGoogle Classroomを使用する。						
到達目標	マス・コミュニケーション学科の「現代社会に溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』ことができる」「新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている」というディプロマポリシーに関連し、国際問題について基礎知識を習得し、クリティカルに現状を分析する能力を備える。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション 予習：国際ニュースを読み、国際社会の現状を把握する（100分） 復習：国際ニュースを読み、説明についてクリティカルに検証する（100分）
第2回	米大統領選の仕組 予習：２０２０年の米大統領選について調べる（100分） 復習：米大統領選について自分の言葉で説明できるようにする（100分）
第3回	米国の社会・経済・政治情勢と大統領選への影響 予習：米国の現状を調べる 復習：米国の現状を自分の言葉で説明できるようにする（100分）
第4回	米大統領選におけるメディアの役割の変遷① 予習：米大統領選とメディアについて調べる（100分） 復習：国際ニュースを読み、説明についてクリティカルに検証する（100分）
第5回	米大統領選におけるメディアの役割の変遷② 予習：米大統領選とメディアについて調べる（100分） 復習：国際ニュースを読み、説明についてクリティカルに検証する（100分）
第6回	冷戦後のロシアとプーチン大統領 予習：冷戦後のロシアについて調べる（100分） 復習：プーチン露大統領について自分の言葉で説明できるようにする（100分）
第7回	ロシアのメディア規制 予習：ロシアのメディアについて調べる（100分） 復習：国際ニュースを読み、説明についてクリティカルに検証する（100分）
第8回	中間テスト 予習：１～７回目の授業内容を振り返る（100分） 復習：国際ニュースを読む（100分）
第9回	アラブの春とSNS 予習：アラブの春について調べる（100分） 復習：国際ニュースを読み、説明についてクリティカルに検証する（100分）
第10回	イスラム国が誕生した背景と、そのメディア戦略 予習：イスラム国について調べる（100分） 復習：国際ニュースを読み、説明についてクリティカルに検証する（100分）
第11回	エルサレム問題とは何か 予習：イスラエルの歴史について調べる（100分） 復習：エルサレム問題を自分の言葉で説明できるようにする（100分）
第12回	宗教とメディア 予習：世界宗教について調べる（100分） 復習：国際ニュースを読み、説明についてクリティカルに検証する（100分）
第13回	特派員の役割 予習：国際ニュースを読み、日本の新聞における特派員の役割を考える（100分） 復習：特派員の役割について自分の考えを持つ（100分）

第14回	まとめ 予習：１～１３までの授業を振り返る（100分） 復習：すべての項目で自分なりの分析をする（100分）

成績評価方法・基準	平常点と小論文＝５０％、国際問題の理解度を問う中間テスト＝２０％、国際問題の理解度と分析力を問う期末レポート＝３０％による総合評価

参考書	『世界年鑑２０２１』　共同通信社著　共同通信社 『国際政治学をつかむ』村田晃司ら著　有斐閣 『１４０字の戦争』パトリック・パトリカラコス著　早川書房
その他	新聞社、通信社が発信する国際ニュースを毎日、読むこと。 連絡は、hatano@edogawa-u.ac.jp　まで。対面での相談が必要な時は、事前にメールでアポを取ることが好ましい。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	読売新聞にて経済部記者、国際部記者・デスク、ワシントン特派員、ジャカルタ支局長、ローマ支局長、調査研究本部主任研究員を歴任
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／マス・コミュニケーション学科(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	秦野　るり子(D-0901)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	国際報道論II				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	マ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	国際情勢とメディアの役割						
授業の概要	国際情勢を検証して、その背景と歴史を学ぶ。国際政治におけるメディアの使われ方、日本の情報発信の現状を考える。国際情勢に応じて、講義テーマの順番等を変更することがあり得る。 対面授業。オンライン授業を実施しなければならい場合、動画については、Google Meet を、資料配付はGoogle Classroomを使用する。						
到達目標	マス・コミュニケーション学科の「現代社会に溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』ことができる」「新しい国際化時代のコミュニケーション活動を担う、マスメディアに関する専門性を身につけている」というディプロマポリシーに関連し、国際情勢に関する基礎知識を身に着ける。また、分析して自分の意見を持てる。同様のことが起こった時に、展開を考察する力を習得する。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション 予習：国際ニュースを読み、情勢を把握する（100分） 復習：国際ニュースを読み、説明についてクリティカルに検証する（100分）
第2回	EUの仕組みと歴史 予習：EUについて調べる（100分） 復習：EUの仕組みを説明できるようにする（100分）
第3回	EUの深化と統合がもたらしたもの 予習：国際ニュースを読み、EUが抱える問題について調べる（100分） 復習：国際ニュースを読み、説明についてクリティカルに検証する（100分）
第4回	英国のEU離脱とその影響 予習：国際ニュースを読み、穎脱後の英国の現状を調べる（100分） 復習：EUの離脱問題を自分の言葉で説明できるようにする（100分）
第5回	北朝鮮問題① 予習：北朝鮮について調べる（100分） 復習：国際ニュースを読み、説明についてクリティカルに検証する（100分）
第6回	北朝鮮問題② 予習：北朝鮮の核問題について調べる（100分） 復習：北朝鮮問題について自分の言葉で説明できるようにする（100分）
第7回	中間テスト 予習：１～６回目までの授業を振り返る 復習：国際ニュースを読んで現状を学ぶ（100分）
第8回	中国・習近平時代 予習：習近平・中国国家主席について調べる（100分） 復習：国際ニュースを読み、説明についてクリティカルに検証する（100分）
第9回	中国の海洋戦略、一帯一路政策 予習：中国の対外戦略について調べる（100分） 復習：南沙諸島問題等について説明できるようにする（100分）
第10回	米中関係 予習：米中関係の現状について調べる（100分） 復習：米中関係の行方について自分の考えをまとめる（100分）
第11回	中国のメディア 予習：中国のメディアについて調べる（100分） 復習：中国のメディアの現状について自分の言葉で説明できるようにする（100分）
第12回	フェイクニュースと国際情勢 予習：フェイクニュースの現状について調べる（100分） 復習：フェイクニュースについて自分の意見をまとめる（100分）
第13回	日本の情報発信力 予習：情報発信の現状について調べる（100分） 復習：情報発信の在り方について自分の考えをまとめる（１００）

第14回	まとめ 予習：後期の授業を振り返る（100分） 復習：国際ニュースを読み、現状について考察する（100分）

成績評価方法・基準	平常点と小論文＝５０％（オンラインでもこちらから問いかけを行うので、対面とオンラインの平常点は同じとする）、国際情勢への理解度を問う中間テスト＝２０％（一部、オンラインが導入されていた場合、テストは全面的にオンラインで行う）、国際情勢への理解度と分析力を問う期末レポート＝３０％を総合的に評価する。

参考書	『世界年鑑２０２１』　共同通信社編　共同通信社 『幸福な監視国家・中国』梶谷懐著　　ＮＨＫ出版
その他	新聞社、通信社が発信する国際ニュースを毎日、読むこと。 連絡は、hatano@edogawa-u.ac.jp　まで。対面での相談が必要な時は、事前にメールでアポを取ることが好ましい。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	読売新聞にて経済部記者、国際部記者・デスク、ワシントン特派員、ジャカルタ支局長、ローマ支局長、調査研究本部主任研究員を歴任
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(3)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／マス・コミュニケーション学科(1)／マス・コミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	廣田 有里(D-1004)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	Webデザイン/Webデザイン論				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	コンセプトから運用までWeb制作の知識を学ぶ						
授業の概要	インターネットの普及に伴い、様々な情報がWebページで伝えられている。今後、社会では情報を受けるだけでなく、発信する側になる力も必要になってくる。 Webは、本や雑誌、テレビなど従来の媒体に比べて複雑な構造をしているため、情報をユーザにとって分かりやすい形で提示できるようにデザインすることが重要である。中でも、Webサイトで「誰に何を伝えたいか」と「どのように提示するか」を考慮する設計をするべきである。 本講義では、Webサイトのデザインにおいて、コンセプトメイキングから制作・テスト・評価・運用を行うための知識と技術を学ぶことを目的とする。実際に、自分でテーマを決めてWebサイトをデザインし、構築する演習を行う。 この講義をオンラインで実施する場合は、エドクラテスで資料配布と課題提出を行い、GoogleMeetで講義を実施する。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、Webサイトのデザインを例として、情報発信の基本スキルを身につける。 具体的には、以下の3点を習得する。 （1）情報をデザインすることの重要性を学び、設計に生かすことができる。 （2）Webサイトを作成する基本的な技術（HTML・CSS）を習得する。 （3）ユーザビリティを考慮したWebサイトを作成することができる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション・Webデザインへのアプローチ 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第2回	Webサイトの技術 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第3回	コンセプトメイキング 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第4回	情報の組織化と構造化 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第5回	Webページの画面構成 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第6回	素材の制作 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第7回	テストと修正 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第8回	HTMLとCSSの基礎 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第9回	文書要素の制御 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第10回	文字の装飾 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第11回	フォームの作成 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第12回	CSSを用いたレイアウト

	予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第13回	Webサイト作成の実践 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第14回	知的財産権 予習：教科書を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と教科書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（60%） 平常点（10%）（課題への取り組みと授業での発言） 筆記試験（30%）

書名	著者	出版社	ISBN	備考
入門Webデザイン		CG-ARTS協会	978-4-903474-52-6	
参考書				
その他	パソコンを持参すること 連絡先：hirota@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	廣田 有里(D-1004)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	情報ネットワーク/情報ネットワーク論				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	インターネットのしくみとネットワーク社会						
授業の概要	スマートフォンでメールをしたり、インターネットでこれから訪問する会社の情報を調べたりなど、情報ネットワークは私たちの生活に欠かせないインフラになっている。最近は、企業の発信する情報を受けるだけでなく、ブログやTwitter、Facebookを通してユーザ自身が積極的に情報発信することも盛んである。積極的なネットワーク活用には、ネットワークの基本的なしくみや頻繁に出てくる技術用語を理解している必要がある。 本講義では、ネットワークの中を情報がどのような形で流れ、どのようなしくみで相手に伝達されるかを技術的な面から理解する。また、ネットコミュニケーションがどのように発達し、生活に利用されているかを学ぶ。 この講義をオンラインで実施する場合は、エドクラテスで資料配布と課題提出を行い、GoogleMeetで講義を実施する。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、以下の2項目を身に着けることができる。 （1）インターネットの情報伝達のしくみを理解し、簡単なネットワークの診断を行うことができる。 （2）社会の中で、インターネットがどのように利用されているかを知り、メリット・デメリットを理解した上で適切に利用できるようになる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション　コンピュータとネットワークの発展 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第2回	ネットワークの基礎知識 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第3回	ネットワークの構成要素 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第4回	TCP/IPの基礎 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第5回	プロトコルと階層モデル 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第6回	データリンクの技術 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第7回	IPの機能としくみ－IPプロトコル 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第8回	IPに関する技術 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第9回	トランスポート層の役割－TCPとUDP 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第10回	パケットの経路を決めるルーティングプロトコル 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第11回	インターネットのアプリケーション 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第12回	インターネットにつなぐためのブロードバンドネットワーク 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）

第13回	情報セキュリティ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）
第14回	インターネットによる社会の変化 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：エドクラテスに掲載されている資料と提示している参考書を参照し、不明な語句を調べながら授業ノートをまとめる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（50%）（2～11回目の課題→到達目標（１）、1,12～14回目→到達目標（２）を授業内で確認） 平常点（10%）（授業に取り組む姿勢と発言） 筆記試験（40%）（到達目標の（１）（２）を筆記試験で確認）

参考書	マスタリングTCP/IP 入門編　竹下隆史、村山公保、荒井透、苅田幸雄（著）　オーム社（出版社）
その他	パソコン持参 連絡先：hirota@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	廣田 有里(D-1004)			履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	e-コマースシステム/e-コマースシステムI				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	eコマース入門						
授業の概要	eコマースとは、商品に関する情報の提供から、受注・納品にいたるビジネスプロセスを電子化して行う商取引のことである。eコマースの市場規模は、急速に拡大してきており、これには、インターネット人口の増加と共に、さまざまな技術的な進歩が貢献している。 本講義では、前半はeコマースの基本から、ユーザビリティ、コンテンツ・デザインなどのサイトを構築するための知識、インターネットマーケティングの基本的な技術を学び、後半はグループワークで店舗の企画を行い、企画内容のプレゼンテーションを行うことにより、eコマースサイトを企画・運営する力を身につけることを目的とする。 この講義をオンラインで実施する場合は、エドクラテスで資料配布と課題提出を行い、GoogleMeetで講義を実施する。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、以下の4項目を身に着けることができる。 （1）eコマースの基本的なしくみ、発展の歴史、関連する法律を理解する。 （2）eコマースを支えるマーケティングの基本を理解する。 （3）eコマース形態の1つであるネットショップの企画・制作・運営の手順を理解するコンセプトを作成できるようになる。 （4）考えたコンセプトやサイトの特徴を、プレゼンを行い相手に伝えることができる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション、eコマースとは 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたサイトを例にして、自分が普段利用するeコマースについて特徴をまとめる（100分）
第2回	eコマースのビジネス環境 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたビジネスモデルを例にして、類似するサイトを調査して特徴をまとめる（100分）
第3回	ネットショップの出店形態と特徴 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示された出店形態のうち特にASPサービスについて、いくつかのサービスを調査して特徴をまとめる（100分）
第4回	電子決済とセキュリティ、法律について 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：電子決済の方法について、身近な方法を調査して特徴をまとめる（100分）
第5回	ユーザビリティとデザイン 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたユーザビリティチェック項目をもとに、よく使用するサイトを調査してチェックの結果を検討しまとめる（100分）
第6回	ネットショップで必要なコンテンツ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示した企業を例にして、ブランディングに成功した企業を調査して戦略をまとめる（100分）
第7回	ネットショップの制作と管理 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたマーケティングを例にして、実際にGoogleアナリティスクを使用して調査し結果をまとめる（100分）
第8回	ネットショップのプロモーション 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたプロモーションを例にして、サービスを提供するサイトを１つ取り上げて調査して特徴をまとめる（100分）
第9回	ネットショップの企画－商材の選択・競合調査 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示された調査方法を例にして、類似する商品を販売するサイトを調査して特徴をまとめる（100分）
第10回	ネットショップの企画－サイトコンセプト 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたサイトコンセプトを例にして、自分たちのサイトのコンセプトをまとめる（100分）
第11回	ネットショップの企画－プレゼンテーション 予習：商材の選択・競合調査の結果・サイトコンセプトの決定をまとめてプレゼンテーションの準備をする（100分） 復習：自分たちのサイトコンセプトについての評価を受け、ネットショップの企画を修正完成させる（100分）

第12回	ネットショップの制作－サイトのデザインの構築 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたサイト構築方法で、サイトのデザインを構築する（100分）
第13回	ネットショップの制作－画像の加工と商材の登録 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示された画像の書こうと商材の登録方法で、サイトの画像と商品の登録を行う（100分）
第14回	ネットショップの運用 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：授業で提示されたサイトの運用モデルを例にして、自分たちのサイトの運用モデルを作成しまとめる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（50%）（1～5回目の課題→到達目標（１）、6～8回目→到達目標（２）、9～13回目→到達目標（３）、11回目のプレゼンテーション→到達目標（4）を授業内で確認） 筆記試験（40%）（到達目標の（１）（２）を筆記試験で確認） 平常点（10%）（課題への取り組みとグループワークでの発言）

参考書	改訂版ネットショップ検定公式テキスト　ネットショップ実務士レベル1対応　一般財団法人ネットショップ能力認定機構（著）日本能率協会マネジメントセンター（出版） ネットマーケティング検定公式テキストインターネットマーケティング 基礎編　藤井裕之(著)　インプレス（出版）
その他	パソコンを持参すること 連絡先：hirota@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	グループワーク／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	廣田 有里(D-1004)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	Webサービス開発/情報文化特講III				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	PythonによるWebサービス開発						
授業の概要	Webサービスとは、ユーザがWebブラウザを通して利用できるサービスを提供する仕組みである。Pythonは汎用性が高く、機械学習やIoTなどの標準言語としても利用され注目の言語である。 本講義では、Pythonのフレームワークの1つである「Django（ジャンゴ）」を使用することにより、様々な機能を持つWebサービスの構築方法を学ぶことができる。 この講義をオンラインで実施する場合は、エドクラテスで資料配布と課題提出を行い、GoogleMeetで講義を実施する。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、Webサービスの開発を通じて以下の3点を習得することを目的とする。 （1）Webサービスとは何かを理解する。 （2）基本的なWebサービス開発方法を習得する。 （3）Python APIを活用する応用力を身につける。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション、Webサービスとは 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：Webサービスの種類と使用する言語を調べ、Webサービスとは何かを説明することができるようにノートにまとめる（100分）
第2回	Djangoの概要、開発環境の作成 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：PythonとDjangoをインストールし、開発環境の準備を完了する（100分）
第3回	DjangoによるWebアプリケーションの作成－プロジェクトの作成－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoでのプロジェクトの作成方法とファイル構成を理解し、プロジェクトを作成することができるようにする（100分）
第4回	DjangoによるWebアプリケーションの作成－データベースの設定－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoでデータベースの設定方法を理解し、プロジェクトにデータベースの設定を行うことができるようにする（100分）
第5回	DjangoによるWebアプリケーションの作成－オブジェクトモデル－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoのオブジェクトの概念を理解し、オブジェクトモデルを作成することができるようにする（100分）
第6回	DjangoによるWebアプリケーションの作成－管理画面による編集－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoの管理画面の機能を理解し、管理画面での設定やポストを行えるようにする（100分）
第7回	DjangoによるWebアプリケーションの作成－ビューの作成－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoでのビューの作成方法を理解し、簡単なビューの作成を行うことができるようにする（100分）
第8回	DjangoによるWebアプリケーションの作成－フォームの作成－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：Djangoでのフォームの作成方法を理解し、簡単なフォームの作成を行うことができるようにする（100分）
第9回	DjangoによるWebアプリケーションの作成－HTMLとWebアプリケーション－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、作業手順を整理してノートにまとめる（100分） 復習：再利用可能なアプリケーションの考え方を理解し、Djangoでの再利用可能なアプリケーションの作成ができるようにする（100分）
第10回	DjangoによるWebアプリケーションの作成－カスタマイズ－ 予習：エドクラテスに掲載されている資料を読み、不明な語句や疑問点を調べてノートにまとめる（100分） 復習：Djangoでのアプリ構造のカスタマイズを行うことができるようにする（100分）
第11回	DjangoによるWebアプリケーションの作成－デプロイ－ 予習：自分の作りたいWebアプリを考えて画面設計をラフでまとめておく（100分） 復習：前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するためのプロジェクト作成と設定を行うことができる（100分）
第12回	DjangoによるWebアプリケーションの作成－オリジナルモデルの設計－ 予習：自分の作りたいWebアプリのデータベース設計を考えてまとめておく（100分） 復習： 前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するためのデータベース設計を行うことができる（100分）

第13回	DjangoによるWebアプリケーションの作成－オリジナルモデルの作成－ 予習：自分の作りたいWebアプリの処理設計からビューを考えてまとめておく（100分） 復習： 前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するためのビューの作成を行うことができる（100分）
第14回	制作したアプリケーションの発表 予習：自分の作りたいWebアプリの画面設計からフォームを考えてまとめておく（100分） 復習： 前回作成したアプリをもとに、オリジナルアプリを作成するためのフォームの作成を行い、オリジナルのWebサービスを動作させることができる（100分）

成績評価方法・基準	実習の課題提出（60%）（1回目→到達目標（１）、2回目→到達目標（２）3～14回目→到達目標（２）（３）を授業内で確認） 最終課題（30%）（到達目標（３）を確認） 平常点（10%）（課題への取り組みと授業での発言）

参考書	現場で使える 基礎 Django　akiyoko（著）　技術書典（出版社） Djangoドキュメント（https://docs.djangoproject.com/ja/3.0/） Python3 + Django2.0入門 - Pythonで作るWebアプリケーション開発入門１～３　ナカノヒトシ（著）　Amazon Services International, Inc.（販売元）
その他	パソコン持参 連絡先：hirota@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	ソフトウェア企業に入社し、10余年にわたり卸・流通業向けのシステム開発 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)／メディアコミュニケーション学部(6)／メディアコミュニケーション学部(7)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	八木　徹（D-0103）、渡邊寿雄(H-0052)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	プログラミングI				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	Pythonによるプログラミングの学習						
授業の概要	近年広く利用されているプログラム言語であるPythonを用い、『プログラミング基礎』での学習をふまえ、Pythonプログラミングを本格的に学ぶ。『プログラミング基礎』を履修済みであるか、同等の知識と経験を有することを前提とする。プログラムの制御構造、データ構造の基本から、Pythonにおける様々なパッケージを活用する方法まで学ぶ。毎回示されたサンプルに基づく小課題のプログラムを作りながら学習を進めていく。 この科目では、資料の配布にはGoogle Classroomを利用し、オンライン授業実施時にはGoogle Meetを利用する。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、プログラミングの知識及びソフトウェア開発の基礎知識の習得を目指す。具体的には、Pythonの文法の基礎知識を身につけ、プログラムを作成・実行することができ、また、問題解決のための適切な処理順序を考えることができるようになる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス：プログラミング学習の方法、クラス分け、プログラム開発環境の確認 予習：Pythonの基本プログラミング環境がインストール済みであることを確認すること。「プログラミング基礎」の授業（相当の内容）を復習しておくこと。（100分） 復習：Pythonプログラムの開発環境の使い方を理解し、プログラム作成に利用できるようにすること。（100分）
第2回	Pythonの基礎(1)：様々な制御構造 予習：Clasroomの資料を見て、Pythonにおける条件式の書き方、条件分岐 if、反復for, whileの方法について調べておくこと。（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。Pythonの制御構造の文法を理解する(100分)
第3回	Pythonの基礎(1)：様々なデータ構造 予習：Clasroomの資料を見て、Pythonにおけるリスト、タプル、辞書について調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。Pythonの様々なデータ構造を理解する(100分)
第4回	課題作成(1)：CUIアプリケーション 予習：Classroomに指定される課題を事前に見て、不明な点を調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。CUIでの対話的なプログラム作成を理解する(100分)
第5回	Pythonにおける関数の利用 予習：Classroomの資料を見て、Pythonの関数について調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。Pythonでの関数定義を理解する(100分)
第6回	tkinterを用いたプログラム 予習：Classroomの資料を見て、tkinterの基礎的な利用方法を調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。tkinterを利用したGUIプログラム作成を理解する(100分)
第7回	課題制作(2)：GUIでの迷路ゲーム作成 予習：Classroomの資料を見て、作成するプログラムを予め調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。(100分)
第8回	オブジェクトとクラス 予習：Classroomの資料、及び教科書第8章を見て、オブジェクトとクラスについて事前に調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。オブジェクトとクラスの作成、利用方法を知る。(100分)
第9回	モジュールとパッケージ 予習：Classroomの資料、及び教科書第9章を見て、モジュールとパッケージについて事前に調べておくこと（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。モジュールとパッケージの作成方法を理解する(100分)
第10回	様々なパッケージ 予習：Classroomの資料を見て、Pythonに標準で含まれるパッケージを調べる（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。Pythonの標準パッケージを知る(100分)
第11回	画像処理の基礎：PILの概要 予習：Classroomの資料を見て、PILライブラリについて調べておく（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。PILライブラリの利用方法の基礎を知る(100分)
第12回	画像処理の応用 予習：Classroomの資料を見て、PILを用いた画像処理方法の手順を調べておく（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。PILでの画像加工方法を知る(100分)
第13回	課題作成(3)：総合的な課題に取り組む。画像処理を行うGUIアプリケーションを作成する 予習：Classroomの資料を見て、作成する課題の構成要素を調べておく（100分）

	復習：授業で指定される課題に取り組む。(100分)
第14回	課題プログラムの改良とまとめ 予習：Classroomの資料を事前に読み、不明な点を調べておく（100分） 復習：授業で指定される課題に取り組む。課題を完成させる。(100分)

成績評価方法・基準	学習意欲（課題提出により評価する）(25%)、プログラム練習課題（プログラムをエラー無く作成実行できること、プログラムの個々の文法についての理解を、対応する個別の練習課題により評価する）(45%)、学習したプログラミング知識の総合力を問うための最終プログラム課題により全体の理解を評価する（30%）。

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ゼロからわかるPython超入門	佐藤美登利	技術評論社	9784774198309	他の授業で購入している場合はその本を継続して利用するため、別途購入する必要はない
参考書	「Pythonチュートリアル」, https://docs.python.org/ja/3/tutorial/			
その他	科目についての質問は、履修登録前は八木（yagi@edogawa-u.ac.jp）まで。 履修登録後は、Google Classroomの質問用窓口を利用してください。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	科目担当者の八木は、株)富士総合研究所、株)ベストシステムズへの勤務や、独立行政法人科学技術振興機構技術員として、各種システムの構築やシミュレータの開発を行う。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	八木　徹（D-0103）				履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	プログラミングII				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	Pythonによるプログラミング：応用						
授業の概要	「プログラミングI」での学習内容をもとに、さらに高度な内容について学習を深める。このため、「プログラミングI」を履修済みであるか、同等の知識・技能を有することを前提とする。 Pythonのデータ型、基本分布、標準モジュールを整理した上で、プログラム開発の流れを把握し、総合的な課題プログラムに繰り返し取り組む。また様々なモジュールを学びPythonの多様性を知り、問題の解決に役立てることができるようにする。 この科目では、資料の配布にはGoogle Classroomを利用し、オンライン授業実施時にはGoogle Meetを利用する。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、プログラミングの知識及びソフトウェア開発の基礎知識の習得を目指す。具体的には、設計からデバッグまでのプログラミングの流れを身につけ、適切なデータ型、制御文を利用してプログラムを作成できるようになり、多様なモジュールを目的に応じて利用できるようにする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	基礎を振り返ろう。『プログラミングI』の復習 予習：プログラミングIで学んだPythonの基本と、作成した課題プログラムを確認しておくこと。(100分) 復習：Pythonの基本プログラムが作成できることを確認する。(100分)
第2回	プログラミングの全体を理解しよう。設計からデバッグまでの流れを知る 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：仕様策定から設計、コーディング、デバッグ、テストという開発の流れを理解できるようにする。(100分)
第3回	ファイルを操作しよう。ファイル入出力方法について学ぶ 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、ファイル入出力について理解する。(100分)
第4回	エラーと例外。エラーと例外処理について学ぶ 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、エラーと例外処理の方法について理解する(100分)
第5回	Python画像処理(1)：OpenCVの基礎 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、OpenCVの基本操作を理解する(100分)
第6回	Python画像処理(2)：OpenCVによる画像認識 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、画像認識の方法を確認する(100分)
第7回	正規表現(1)：正規表現の基礎 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、正規表現の基礎を知る(100分)
第8回	正規表現(2)：正規表現を用いたテキスト処理 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、正規表現を用いたテキスト処理の方法を理解する(100分)
第9回	Pythonによる問題解決：探索を用いた問題の解き方 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、探索の実装方法を知る(100分)
第10回	Pythonによる問題解決：分割統治法の考え方 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、分割統治法で問題を解く方法を知る(100分)
第11回	Pythonによる問題解決：貪欲法の考え方 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、貪欲法で問題を解く方法を知る(100分)
第12回	Pythonによる問題解決：グラフを用いた考え方 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組み、グラフを用いた問題の解き方を知る(100分)
第13回	統合課題：プログラム設計 これまでの知識を統合してプログラムを作成する。そのための準備を行う。

	予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：プログラムの設計内容を理解し、説明できるようにする。(100分)
第14回	統合課題：プログラム作成 これまでの知識を統合したプログラムを完成させる。 予習：Google Classroomにアップロードした資料を確認しておくこと。(100分) 復習：プログラム作成に用いたモジュールやアルゴリズムを把握し、説明できるようにする。(100分)

成績評価方法・基準	個別のPythonプログラミング知識の理解を問うためのプログラム練習課題（毎回の練習課題）45%、総合的なプログラミングの理解と問題解決への応用力を問う最終課題により30%、及び、課題提出状況や授業参加への積極性をみる平常点25%を総合して評価する。

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ゼロからわかるPython超入門	佐藤美登利	技術評論社	9784774198309	すでに別の授業で購入している人はその本を継続して利用するため購入する必要はない
参考書	「Pythonチュートリアル」, https://docs.python.org/ja/3/tutorial/ 「問題解決のPythonプログラミング」, Srini Devadas 著, オライリー・ジャパン			
その他	科目についての質問は、履修登録前は八木（yagi@edogawa-u.ac.jp）まで。 履修登録後は、Google Classroomの質問用窓口を利用してください。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	科目担当者の八木は、株)富士総合研究所、株)ベストシステムズへの勤務や、独立行政法人科学技術振興機構技術員として、各種システムの構築やシミュレータの開発を行う。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(4)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	八木　徹（D-0103）、山口　敏和(T-0603)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	ロジカルシンキング				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	物の仕組みや問題解決のための考え方						
授業の概要	パズルを題材にして論理的に考える力をトレーニングする。身近にあるシステムの動作原理について考察する。フローチャートによるアルゴリズムの記述法を知り、今後のプログラミング、アルゴリズムの学習を行う基礎とする。さらに、簡易的なプログラムを作成し、実際に問題を解くことで適切にアルゴリズムを記述する力を養う。 この科目では、資料の配布にはGoogle Classroomを利用し、オンライン授業実施時にはGoogle Meetを利用する。 第７回、第８回の「プログラム制作実習」は、対面での実習形式を想定し、日程を調整して集中的な実施を予定している。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部のディプロマポリシーのうち「知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる」及び「新しい時代を豊かに生きぬくため、溢れる情報を正確に判断・選別しうる能力と、的確に伝える能力を修得している」と、情報文化学科のディプロマポリシーのうち「進化するメディア環境の中で、溢れる情報を「正確に捉え、的確に伝える」ことができる」に関連し、問題解決のための論理的な考え方ができるようになることと、簡単なアルゴリズムを適切に記述できるようになることを目指す。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方）：論理的に考察する問題に取り組み、授業全体の受講方法を確認する（山口・八木） 予習：論理的な思考法とはどのようなものか自分なりに調べまとめる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第2回	全数探索：全ての可能性をしらみつぶしに調べる方法について考察する（八木） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第3回	深さ優先探索：探索法として深さ優先探索について考察する（八木） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第4回	幅優先探索：探索法として幅優先探索について考察する（八木） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第5回	アルゴリズムの記述法：フローチャートの表記法を学び、アルゴリズムの記述を行う。（八木） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第6回	プログラミングによる問題の解決：具体的な問題を解くためのプログラム設計をする（山口・八木） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第7回	プログラム制作実習（１）：具体的な問題を解くためにのプログラムを作成する（土曜日など日程を調整し集中実施予定）（山口・八木） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第8回	プログラム制作実習（２）：作成したプログラムの動作、改良、講評をおこなう（土曜日など日程を調整し集中実施予定）（山口・八木） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第9回	様々なシステムの仕組み：身近にある様々なシステムがどの用意動作するか、その仕組みを考察する（山口） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第10回	分割統治法：問題を小さな部分に分けて考察する方法の一つについて学ぶ（八木） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第11回	再帰：問題を小さな部分に分けて考察する方法の一つについて学ぶ（八木） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第12回	貪欲法：常に最大の効果がえらえる選択を続けていく方法について学ぶ（八木） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第13回	グラフの利用：グラフを用いた考え方について学ぶ（八木） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分)

	復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)
第14回	まとめ：総合的な最終課題に取り組む（山口・八木） 予習：Classroomに出される資料を事前に読み、不明な点を調べる。(100分) 復習：授業で出される課題に取り組む。(100分)

成績評価方法・基準	個別の問題解決方法に関する考え方が理解できているかを問う毎回の授業で出される課題（45%）、問題解決のための論理的な考え方と、簡単なアルゴリズムが適切に記述できるかを問う最終課題（40%）、平常点(15%)を合計して評価する。

参考書	アルゴリズムパズループログラマのための数学パズル入門ー, Anany Levitin, Maria Levitin 著, 黒川 洋, 松崎 公紀 訳、オライリー・ジャパン 問題解決のPythonプログラミング, Srini Devadas 著, 黒川 利明 訳、オライリー・ジャパン Python計算機科学新教本, David Kopec 著, 黒川 利明 訳、オライリー・ジャパン
その他	科目についての問い合わせは八木（yagi@edogawa-u.ac.jp）まで。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	科目担当者の八木は、株)富士総合研究所、株)ベストシステムズへの勤務や、独立行政法人科学技術振興機構技術員として、各種システムの構築やシミュレータの開発を行う。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(6)／情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	氏原　基余司(D-0503)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	国語				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	保育士、幼稚園教諭として「国語（言葉）の指導」ができるようになること。						
授業の概要	前半（第１回から第８回）は、国語の重要性とその役割、国語施策の内容を中心に学ぶ。後半（第９回から第１４回）は、幼・小教育のつながりとその関連を踏まえて、国語科教育に必要な知識や技能が習得できるように授業を行う。授業形式は講義を中心とするが、学生とのやり取りを重視して行う。オンラインになった場合は「Googleクラスルーム」で授業を行う。						
到達目標	この科目は、こどもコミュニケーション学科の「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている。」という「ディプロマ・ポリシー」に関連している。具体的には以下の３点を目標にする。 1　国語の重要性とその役割について理解し、国語科教育の持つ意味を理解する。 2　国語表記のよりどころとなっている国語施策（常用漢字表、現代仮名遣い、送り仮名の付け方、外来語の表記等）の内容を理解し、身に付ける。 3　国語を教える場合の基本事項（話す・聞く・読む・書く等）を理解し、身に付ける。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	「国語の重要性とその役割」について 授業内容：国語の重要性を確認した後、ことばシリーズ38「言葉と環境」に入っている「言語環境としての家庭」を配布し、子供の言語獲得について確認する。 復習：「言語環境としての家庭」を改めて読み直し、自分の考えをまとめてくる。（100分）
第2回	子供の発達段階と国語教育、国語教育の持つ意味 授業内容：前回配布した「言語環境としての家庭」を使って、改めて言語獲得についてまとめていく。その過程で、内言、外言、セミリンガル（ダブルリミテッド）の問題を取り上げる。 予習：ピアジェ、ヴィゴツキーについて調べてくる。（100分） 復習：国語教育の持つ重要性について説明できる。（100分）
第3回	日本人のコミュニケーションの在り方について 授業内容：「相手依存の自己規定」（鈴木孝夫）を読んで、日本人のコミュニケーションの在り方について考察を加える。欧米人との違いを理解する。 予習：事前に配布された「相手依存の自己規定」を読んでくる。（100分） 復習：人称代名詞の使い方などに見られる欧米人との違いを説明できる。（100分）
第4回	国語力について（1） 授業内容：「これからの時代に求められる国語力について」（文化審議会答申）を使って、国語力の重要性について確認していく。 予習：「これからの時代に求められる国語力について」を読んでくる。（100分） 復習：「国語力の重要性」について説明できる。（100分）
第5回	国語力について（２） 授業内容：「これからの時代に求められる国語力について」のうち、脳の発達との関係についてもう少し掘り下げて説明する。 予習：「これからの時代に求められる国語力について」のうち、「脳の発達との関係」について記述された部分を読んでくる。（100分） 復習：「脳の発達との関係」を踏まえて、国語力の重要性を説明できる。（100分）
第6回	国語力についてのまとめ 授業内容：講演「読書と国語力」（川島隆太、９０分）を見て、「脳の発達」と「言葉の発達」の関係を理解する。 予習：「脳の発達」と「言葉の発達」との関係について、調べてくる。（100分） 復習：「読書と国語力」を見て理解した内容を1000字から1500字程度にまとめ、次回の授業で提出する。（100分）
第7回	国語施策について（1） 授業内容：「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」について確認し、小学校低学年の児童にどう教えるかを理解し、身に付ける。 予習：「新しい国語表記ハンドブック」の「現代仮名遣い」と「送り仮名の付け方」のところを読んでくる。（100分） 復習：「現代仮名遣い」と「送り仮名の付け方」について理解し、教えることができるようになる。（100分）
第8回	国語施策について（２） 授業内容：「外来語の表記」「ローマ字のつづり方」について確認し、小学校低学年の児童にどう教えるかを理解し、身に付ける。 予習：「新しい国語表記ハンドブック」の「外来語の表記」と「ローマ字のつづり方」のところを読んでくる。（100分） 復習：「外来語の表記」と「ローマ字のつづり方」について理解し、教えることができるようになる。（100分）

第9回	小学校における「漢字教育」について 授業内容：「常用漢字表」と「学年別漢字配当表(1026字)」との関係、具体的な字形指導について、どう教えるかを理解し、身に付ける。音と訓との関係、訓の持つ意味についても説明する。 予習：「新しい国語表記ハンドブック」の「常用漢字表」と「学年別漢字配当表(1026字)」のところを読んでくる。（100分） 復習：漢字についての考え方を理解し、教えることができるようになる。（100分）
第10回	小学校における「話す・聞く」の指導について 授業内容：「学習指導要領」にある「話す・聞く」の内容を確認した上で、どう教えるかを理解し、身に付ける。 予習：事前に配布された「学習指導要領」の「話す・聞く」のところを読んでくる。（100分） 復習：「話す・聞く」の内容を理解した上で、教えることができるようになる。（100分）
第11回	小学校における「読む・書く」の指導について 授業内容：「学習指導要領」にある「読む・書く」の内容を確認した上で、どう教えるかを理解し、身に付ける。 予習：事前に配布された「学習指導要領」の「読む・書く」のところを読んでくる。（100分） 復習：「読む・書く」の内容を理解した上で、教えることができるようになる。（100分）
第12回	授業ビデオ「漢字の字源をさぐる」を見る 授業内容：「漢字の字源をさぐる」（５年生、５０分）の授業を見て、どのように指導するのかを具体的に理解する。残りの時間で子供たちの様子や教え方についてグループごとに検討する。 予習：「漢字の字源」について、各自で調べてくる。（100分） 復習：授業について「感じたこと・考えたこと」を1000字から1500字程度にまとめ、次回の授業で提出する。（100分）
第13回	授業のまとめ（①） 授業内容：これまでの講義内容を整理し、必要があれば補足を加える。また「幼稚園教育要領」についても取り上げる。 予習：これまでの授業内容を総括する。（100分） 復習：これまでの授業内容を踏まえて、ノートの整理をする。（100分）
第14回	授業のまとめ（②） 授業内容：前半は質問があればここで聞いてください。後半は簡単な授業内テストをやります。

成績評価方法・基準	対面時の評価方法：国語の重要性とその役割を十分に理解した上で、国語施策の内容や国語科教育の指導法などについて、その理解を問う定期試験で７０％、授業への取組（課題の提出状況・その内容、出席状況など）で　　３０％、以上を総合的に判断して評価する。 オンライン授業での評価方法：授業への取組（課題の提出状況・その内容、出席状況など）で６０％、授業内テストで４０％、以上を総合的に判断して評価する。

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「新しい国語表記ハンドブック　第八版」		三省堂	978-4-385-21139-8	
参考書	①「「これからの時代に求められる国語力について」（文化審議会答申）」（これはPDFで配布します。），文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編」 ②文部科学省「幼稚園教育要領解説（平成30年２月）」 ③厚生労働省「保育所保育指針解説（平成30年２月）」			
その他	授業に関する質問等がある場合は、メールアドレス（ujihara@edogawa-u.ac.jp）に連絡をください。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	都立高校教諭、文化庁文化部国語課・国語調査官、同主任国語調査官
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	我謝　美左子(T-0305)			履修開始年次	3年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	子ども家庭支援論/家庭支援論				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	保育者が担う子ども家庭支援						
授業の概要	家庭養育の方向性が示される中、家庭で暮らすすべての子どもが第一義的養育者となる保護者によって適切に養育されるよう、子どもの最善の利益の視点から、家庭への支援及びその支援体制を整えることが求められている。そこで、この科目では、子どもの最善の利益の視点から、支援を要する子ども、家庭の状況を捉えた上で、保育士が担う子ども家庭支援の意義・目的・役割を理解できるようになることを目的とする。適宜、ディスカッションを取り入れる。 この科目では、資料の配布等ではGoogle Classroomを使用し、オンライン授業実施時の動画についてはGoogle Meetを使用する。						
到達目標	この科目はこどもコミュニケーション学科の「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている」「溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』コミュニケーション能力を備え、子ども、家庭、学校、地域社会、職域その他の社会的関係性を踏まえ、相互に協力しつつ地域の子ども・子育て支援に貢献し続けることの大切さを理解している」というディプロマポリシーに関連し、次の3点を到達目標としている。 1．子ども、家庭に対する支援の意義・目的を理解し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本について説明することができる。 2．子ども、家庭への支援体制について説明することができる。 3．子ども、家庭のニーズに応じ多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について考察することができる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス　　授業の目標、進め方、評価方法 子ども家庭支援の意義と役割①　子ども家庭支援の意義と必要性（1講）　子ども家庭支援の目的と機能（2講） 予習：シラバスを見て授業の概要をつかむ（100分） 復習：子ども家庭支援の基本について説明することができる（100分）
第2回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本①　保育の専門性を活かした子ども子育て支援の意義（5講） 予習：保育の専門性について調べる（100分） 復習：子ども家庭支援における保育の専門性の要点を説明できる（100分）
第3回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本②　子どもの育ちの喜びの共有（6講） 予習：子どもの育ちの共有について調べる（100分） 復習：子どもの育ちの共有について説明できる（100分）
第4回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本③　保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援（7講） 予習：保護者及び地域の子育てする力の状態について調べる（100分） 復習：保護者及び地域の子育てする力の向上する支援の要点をまとめる（100分）
第5回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本④　保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持）（8講） 予習：保育士に求められる基本的態度について調べる（100分） 復習：保育士が基本的態度を習得することがなぜ必要か、考えをまとめる（100分）
第6回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本⑤　家庭の状況に応じた支援（9講） 予習：家庭の状況について調べる（100分） 復習：家庭の状況に応じた支援の要点をまとめる（100分）
第7回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本⑥　地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力（10講） 予習：居住自治体の資源について調べる（100分） 復習：自治体間による資源に差があることについて考えをまとめる（100分）
第8回	子育て家庭に対する支援の体制①　子ども家庭の福祉を図るための社会資源（4講） 予習：子ども家庭の状況に合わせた資源について調べる（100分） 復習：子ども家庭が社会資源を活用する必要性について考えをまとめる（100分）
第9回	子育て家庭に対する支援の体制②　子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進（3講） 予習：子育て支援施策・次世代育成支援施策について調べる（100分） 復習：子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進要点を説明でききる（100分）
第10回	多様な支援の展開と関係機関との連携①　子ども家庭支援の内容と対象（11講） 予習：子ども家庭支援の内容について調べる（100分） 復習：子ども家庭支援の対象に合わせた内容について考えをまとめる（100分）
第11回	多様な支援の展開と関係機関との連携②　保育所等を利用する子どもの家庭への支援（12講） 予習：保育所等を利用する子どもの家庭の状況について調べる（100分） 復習：保育所等を利用する子どもの家庭への具体的支援について説明できる（100分）
第12回	多様な支援の展開と関係機関との連携③　地域の子育て家庭への支援（13講） 予習：地域の子育て家庭の状況について調べる（100分） 復習：地域の子育て家庭への具体的支援について考えをまとめる（100分）

第13回	多様な支援の展開と関係機関との連携④　要保護児童及びその家庭に対する支援（14講）） 予習：要保護児童及びその家庭の状況について調べる（100分） 復習：要保護児童及びその家庭への具体的支援について考えをまとめる（100分）
第14回	多様な支援の展開と関係機関との連携⑤　子ども家庭支援に関する現状と課題（15講） 予習：子ども家庭支援の現状について調べる（100分） 復習：授業全体をふり返り子ども家庭支援の現状と課題について考えをまとめる（100分）

成績評価方法・基準	・対面時の評価方法 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本や支援体制についての理解を問う課題レポート60%、子ども・家庭のニーズに応じた多様な子ども家庭支援の現状・課題についての考えをまとめる授業課題（30%）、発言等の平常点(10%)を合計して評価する。授業課題は、適宜、返却し解説する。 ・オンライン授業での評価方法 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本や支援体制についての理解を問う課題レポート60%、子ども・家庭のニーズに応じた多様な子ども家庭支援の現状・課題についての考えをまとめる授業課題（40%）を合計して評価する。授業課題は、適宜、返却し解説する。 授業課題は、適宜で返却し解説する。

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『子ども家庭支援論』	編集:松原康雄・村田典子・南野奈津子	中央法規出版	9784805857854	2019年発行
参考書				
その他	連絡先　gaja@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	社会福祉法人母子生活支援施設母子指導員及び子ども家庭支援センター嘱託相談員として、社会的養育の場に20余年にわたり従事
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)／こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	我謝　美左子(T-0305)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	子育て支援/相談援助				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	子育て支援内容とスキル						
授業の概要	地域で暮らす要保護・要支援児童を含む、保育所入所児及び未入所児を養育する保護者に対し、保育所が相談支援の役割を担う必要があることを学び、そのための方法・技術を理解することを目的とする。適宜、グループワーク、デスカッション、ロールプレイなどを取り入れる。 この科目では、資料の配布等ではGoogle Classroomを使用し、オンライン授業実施時の動画についてはGoogle Meetを使用する。						
到達目標	この科目はこどもコミュニケーション学科の「子どもの成長を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている」「溢れる情報を『正確にとらえ、的確に伝える』コミュニケーション能力を備え、子ども、家庭、学校、地域社会、職域その他の社会的関係性を踏まえ、相互に協力しつつ地域の子ども・子育て支援に貢献し続けることの大切さを理解している」というディプロマポリシーと関連させて次の2点を到達目標としている。 1．保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供等の支援について、その特性と展開を具体的に説明することができる。 2．保育士による子育て支援の内容・方法・技術について、実践事例を通して具体的に討議することができる。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス　　授業の目標、進め方、評価方法 保育士の行う子育て支援の特性①　　子どもの保育ともに行う保護者の支援（1章） 予習：シラバスをみて授業の概要をつかむ（100分） 復習：子育て支援の特性について説明できる（100分）
第2回	保育士の行う子育て支援の特性②　子どもの保育とともに行う保護者の支援（2章） 予習：子どもと保護者が抱えるニーズについて調べる(100分) 復習：子どもの権利擁護の視点から子育て支援について考えをまとめる(100分)
第3回	保育士の行う子育て支援の特性③　子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供（3章） 予習：子どもが他者と関わる機会や場について調べる(100分) 復習：子ども・保護者が他者と関わる必要性について考えをまとめる(100分)
第4回	保育士の行う子育て支援の特性④　日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成（7章） 予習：子どもの保護者と信頼関係を形成する方法について調べる(100分) 復習：子どもの保護者と信頼関係を形成する必要性や方法について要点を説明できる(100分)
第5回	保育士の行う子育て支援の特性⑤　保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解（7章） 予習：保護者のニーズについて調べる(100分) 復習：ニーズを含め多面的に保護者の状況について考えまとめる(100分)
第6回	保育士の行う子育て支援の展開③　　子ども及び保護者の状況・状態の把握（7章） 予習：子どもと保護者の状況について調べる(100分) 復習：子どもと保護者の状況・状態について説明できる(100分)
第7回	保育士の行う子育て支援の展開②　　支援の計画と環境の構成、支援の実践・記録・評価・カンファレンス、職員間の連携・協働（5章） 予習：支援計画について調べる(100分) 復習：子育て支援の展開の要点を説明できる(100分)
第8回	保育士の行う子育て支援の展開③　社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働（8章） 予習：子どもや保護者が活用可能な社会資源について調べる(100分) 復習：社会資源の活用や関係機関の連携・協働について考えをまとめる(100分)
第9回	保育士の行う子育て支援の実際（内容・方法・技術）①　保育所等における支援(10章) 予習：保育所の子育て支援について調べる(100分) 復習：保育所の具体的な子育について考えをまとめる(100分)
第10回	保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）③　特別な支援を要する子ども及びその家庭に対する支援、子ども虐待予防と対応、要保護児童等の家庭に他対する支援、障害のある子どもに対する支援（10章） 予習：特別な支援を要する子ども・家庭の状況について調べる(100分) 復習：事例検討を通して具体的な支援について考えをまとめる(100分)
第11回	保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）④　多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解（11章） 予習：支援を要する子育て家庭のニーズについて調べる(100分) 復習：事例を通して具体的に支援を要する家庭の状況について考えをまとめる(100分)
第12回	保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑤　グループ討議による事例検討（12.13章） 予習：保育所の子育て支援について調べる(100分) 復習：事例を通して保育所における具体的な子育て支援について考えをまとめる（100分）

第13回	保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑥　グループによるプレゼンテーション（12.13章） 予習：発表の準備をする(100分) 復習：発表で得た気づきをまとめる(100分)
第14回	保育士が担う子育て支援の総括 予習：保育士が担う子育て支援の課題について考えをまとめる（100分） 復習：授業全体をふり返り子育て支援について考えをまとめる（100分）

成績評価方法・基準	・対面時の評価方法 保育の専門性を背景とした子育て支援の特性と展開について理解を問う課題レポート60%、実践事例検討を通して考えをまとめる授業課題20%、グループワークへの参加態度20%を合計して評価する。授業課題は、適宜返却し解説する。 ・オンライン授業での評価方法 保育の専門性を背景とした子育て支援の特性と展開について理解を問う課題レポート60%、実践事例検討を通して考えをまとめる授業課題40%を合計して評価する。授業課題は、適宜返却し解説する。

書名	著者	出版社	ISBN	備考
学ぶ・わかる・みえる『演習・保育と子育て支援』	編集小原敏郎・橋本好市・三浦主博	みらい	9784860154905	2019発行
参考書				
その他	連絡先　gaja@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	社会福祉法人母子生活支援施設母子指導員及び子ども家庭支援センター嘱託相談員として、社会的養育の場に20余年にわたり従事
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)／こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	髙橋　克(T-0103)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	こどもと文学				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	民話と児童文学に触れる						
授業の概要	日本の児童文学は、近代文学成立とほぼ同時期に確立されたと考えられるが、その時期の雑誌や童話などの文学作品から現代に至る主な雑誌・文学作品を鑑賞することによって、それら作品が大人から児童に向けた教育を主眼とした内容から、遊びの要素を持ちつつも次第に大人の文学作品としてもその地位を持つようになったことを理解する。また、昔話や伝説を網羅する民話は、民間の習俗や知恵の集積があり、日本人の原像が語られる文学であることも理解する。 新型コロナウイルス感染症拡大時の対策として、エドクラテスとGoogle meetでのテオンラインでの授業実施となります。感染症が終息に向かった場合は順次対面授業を導入します。						
到達目標	日本文学史における児童文学、民話の位置を理解するとともに、文学作品（主として童話、昔話）の鑑賞を通して、教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけ、子どもの成長過程を見据え健全な成長を導き、児童文学の教育的価値観や文学的価値観を評価できる。 　この科目はメディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」、こどもコミュニケーション学科の「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につけている。」というディプロマ・ポリシーに関連している。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	日本文学史における児童文学・・児童文学の概略 予習：任意の児童文学作品を読んでおく。(100分) 復習：授業で扱った作品の読み込みをして鑑賞文にまとめる。(100分)
第2回	日本の民話の鑑賞・・子ども向け動画・漫画を含む 予習：任意の児童文学作品を読んでおく。(100分) 復習：授業で扱った作品の読み込みをして鑑賞文にまとめる。(100分)
第3回	日本の民話の鑑賞・・絵本及び各自の推薦する物語 予習：任意の民話を読んで推薦文を書いておく。(100分) 復習：授業で扱った作品の読み込みをして鑑賞文にまとめる。(100分)
第4回	岩谷小波「こがね丸」・小川未明「赤い鳥」の作品鑑賞 予習：任意の児童文学を読んで鑑賞文を書いておく。(100分) 復習：授業で扱った作品の読み込みをして鑑賞文にまとめる。(100分)
第5回	鈴木三重吉主宰の「赤い鳥」の児童文学における意義 予習：任意の児童文学を読んでおく。(100分) 復習：児童文学における「赤い鳥」の功績についてまとめ説明できるようにする。(100分)
第6回	鈴木三重吉作品の鑑賞・・「ぽっぽのお手帳」「狐とお菓子」「欲張り猫」「赤いか青いか」他 予習：「赤い鳥」所収の児童文学を読んでおく。(100分) 復習：「赤い鳥」所収の任意の作品についてまとめ説明できるようにする。(100分)
第7回	高浜虚子「一寸法師」・谷口喜代子「めがね」・丹野てい子「どんぐり小坊主」等の作品鑑賞 予習：「赤い鳥」所収の児童文学を読んでおく。(100分) 復習：授業で扱った作品の鑑賞をまとめ説明できるようにする。(100分)
第8回	北原白秋の童謡の朗読と鑑賞・・「赤い鳥小鳥」「あわて床屋」「雀のお宿」「ねんねこうた」「ちんちん千鳥」など 予習：「赤い鳥」所収の児童文学を読んでおく。(100分) 復習：「赤い鳥」所収の任意の作品について朗読披露できるようにする。(100分)
第9回	宮沢賢治の童話作品（宮沢賢治童話全集より各自選択）を読み鑑賞する。 予習：任意の宮沢賢治の童話を読んでおく。(100分) 復習：任意の宮沢賢治の童話の作品について鑑賞文をまとめ説明できるようにする。(100分)
第10回	『千葉ふるさと昔話』から羽衣の松、狐の恩返し、河童のしっぽなど10話程度を読み鑑賞する。 予習：『千葉ふるさと昔話』を読んでおく。(100分) 復習：『千葉ふるさと昔話』の中の羽衣の松、狐の恩返し、河童のしっぽなどの分類をまとめ説明できるようにする。(100分)
第11回	『千葉ふるさと昔話』から羽衣の松、狐の恩返し、河童のしっぽなど10話程度を読み鑑賞する。 予習：『千葉ふるさと昔話』を読んでおく。(100分) 復習：『千葉ふるさと昔話』の中の羽衣の松、狐の恩返し、河童のしっぽなどの分類をまとめ説明できるようにする。(100分)
第12回	『千葉ふるさと昔話』からお仙ころがし、すずめの親孝行、鼻を折られた天狗など10話程度を読み鑑賞する。 予習：『千葉ふるさと昔話』を読んでおく。(100分)

	復習：『千葉ふるさと昔話』の中のお仙ころがし、すずめの親孝行、鼻を折られた天狗などの分類をまとめ説明できるようにする。(100分)
第13回	民話や児童文学（童話）の自己形成に及ぼす影響についての紹介と鑑賞および考察の発表（プレゼンテーション） 予習：任意の童話を読んでおく。(100分) 復習：民話や児童文学（童話）の自己形成に及ぼす影響についてまとめ説明できるようにする。(100分)
第14回	民話や児童文学（童話）の自己形成に及ぼす影響についての紹介と鑑賞および考察の発表（プレゼンテーション） 予習：任意の民話を読んでおく。(100分) 復習：民話や児童文学（童話）の自己形成に及ぼす影響についてまとめ説明できるようにする。(100分)

成績評価方法・基準	オンライン授業、対面授業ともに同じ基準で評価します。体験としての民話や児童文学の自己形成に及ぼす影響についての理解度を諮る課題プリントの内容４０％、発表と発表要旨提出２０％、評価レポート４０％で評価 理解度を諮る課題については次回の授業冒頭で模範解答例を示すなどしてフィードバックを行います。

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『千葉ふるさと昔話』	高橋克	千葉興業銀行		
参考書	『房総の民話』　高橋在久　未来社 配布プリント			
その他	授業に関する質問等は、エドクラテスもしくはメール（takahasi@edogawa-u.ac.jp)で。			
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	県立高校に教諭として18年勤務。県立博物館に学芸員として3年勤務。県教育委員会生涯学習部文化財課に文化財主事として3年勤務。学校教育と社会教育、文化財保護行政の場で教育・研究を実施。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	プレゼンテーション／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(7)／こどもコミュニケーション学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	髙橋　克(T-0103)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	生涯学習論				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	生涯学習の現状と課題						
授業の概要	生涯学習及び社会教育の本質について理解するとともに、学習者の特性や各種教育の連携についてなど、広く生涯学習に関する事項について学び検証する。また、主体的に学習する人たちの社会のありかたを学び考察する。 新型コロナウイルス感染症拡大時の対策として、エドクラテスとGoogle meetでのテオンラインでの授業実施となります。感染症が終息に向かった場合は順次対面授業を導入します。						
到達目標	生涯学習の意義や方法や施設の現状などを学び、説明できること。 この科目はこどもコミュニケーション学科のディプロマ・ポリシーと関連し、保育者として必要な、「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につける」ものである。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	「生涯学習」の位置づけ－私たちを取り巻く学習環境－ 予習：生涯学習と自身の関わりを調べておく。(100分) 復習：自身の生涯学習の実際を系統的に説明できるようにまとめる。(100分)
第2回	「生涯学習」の意義 予習：生涯学習の必要性について調べておく。(100分) 復習：生涯学習の必要性をまとめ説明できるようにまとめる。(100分)
第3回	生涯学習（教育）論：生涯学習(教育)論の理念の出現（諸外国の事例から） 予習：生涯学習という言葉の使われた歴史を調べておく。(100分) 復習：生涯学習の出現した歴史を説明できるようにまとめる。(100分)
第4回	生涯学習と教育（1）：生涯学習と家庭教育の動向について 予習：家庭での教育の具体的事例を調べておく。(100分) 復習：生涯学習における家庭教育の重要性を説明できるようにまとめる。(100分)
第5回	生涯学習と教育（2）：生涯学習と学校教育の動向について 予習：学校教育と社会との関わりを調べておく。(100分) 復習：生涯学習における学校教育の重要性を説明できるようにまとめる。(100分)
第6回	生涯学習と教育（3）：生涯学習と社会教育の動向について 予習：社会教育施設の現在の動向について調べておく。(100分) 復習：社会教育と生涯学習についてまとめ説明できるようにする。(100分)
第7回	生涯学習と教育（4）：生涯学習と各種教育の連携について 予習：生涯に受けることの可能な学習機会について調べておく。(100分) 復習：生涯学習における様々に連携した学習機会を説明できるようにまとめる。(100分)
第8回	社会教育の概要（1）：日本の社会教育の歴史と社会教育の発展過程 予習：日本における社会教育について調べておく。(100分) 復習：日本の社会教育について説明できるようにまとめる。(100分)
第9回	社会教育の概要（2）：一般的・法制的概念から見た社会教育の対象・範囲 予習：社会教育法の条文を読み込んでおく。(100分) 復習：社会教育法のもとの社会教育機関について説明できるようにまとめる。(100分)
第10回	生涯学習の活動と評価（1）：学びたいという意欲・意志に基づいた学習の内容、方法、形態について 予習：学校以外の学習機会を提供している機関について調べておく。(100分) 復習：生涯学習の多様性について説明できるようにまとめる。(100分)
第11回	生涯学習の活動と評価（2）：学びたいという意欲・意志に基づいた学習の評価について 予習：生涯学習の評価のあり方について調べておく。(100分) 復習：生涯学習の評価のあり方について説明できるようにまとめる。(100分)
第12回	生涯学習と関連施設（1）：公共図書館の役割と日本的特質 予習：公共図書館の活動について調べておく。(100分) 復習：生涯学習社会における公共図書館の活動について説明できるようにまとめる。(100分)
第13回	生涯学習と関連施設（2）：公民館・コミュニティーセンターの役割と歴史的意義 予習：公民館やコミュニティーセンターの事業について調べておく。(100分) 復習：生涯学習社会における公民館やコミュニティーセンターのあり方について説明できるようにまとめる。(100分)
第14回	生涯学習と関連施設（3）：博物館の現況と種類、博物館活動、教育普及活動などの総合的ネットワーク

	予習：博物館の事業について調べておく。(100分) 復習：生涯学習社会における博物館の活動の意義について説明できるようにまとめる。(100分)

成績評価方法・基準	オンライン授業、対面授業ともに同じ基準で評価します。本科目は生涯学習の重要性についての理解度に注目して100点満点として、評価レポート40%、社会教育施設研究レポート30%、毎時課題提出物30%を目安として総合的に評価します。 毎時課題については次回の授業冒頭で模範解答例を示すなどしてフィードバックを行います。

参考書	配布プリント
その他	できる範囲で生涯学習の場である施設を体験してください。 授業に関する質問等は、エドクラテスもしくはメール（takahasi@edogawa-u.ac.jp)で。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	県立高校に教諭として18年勤務。県立博物館に学芸員として3年勤務。県教育委員会生涯学習部文化財課に文化財主事として3年勤務。学校教育と社会教育、文化財保護行政の場で教育・研究を実施。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習）／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	守屋　志保(D-0402)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	健康・スポーツ科学/健康・スポーツ科学I				
学期※2	2021年度前期			学校区分	大学		
科目群	1群			区分（授業形態）	週間授業		
副題	スポーツを通じてコミュニケーション能力を身につける。						
授業の概要	スポーツを文化としてとらえ、その魅力を探るとともに、現代社会の現状と課題をあげ、コミュニケーション、チームワークなどスポーツを切り口に問題解決する方法を検討する。また、スポーツを健康・体力作りの視点でとらえ、運動生理学やスポーツ医学、栄養学的な知見を手がかりに私たちの生活の中でスポーツや身体運動とどのように関わっていったらいいのかを考察する。						
到達目標	こどもコミュニケーション学科のディプロマポリシーである「情報を正確に捉え、的確に伝えるコミュニケーション能力を備える」にそって、スポーツを健康・体力づくりの視点でとらえ、身体に対しての気づき、健康に対して適切な知識を身につける。また、グループで活動していく中で、周囲の状況を的確に捉え、コミュニケーション能力、協調性などのスキルを身につける。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	文化としてのスポーツのとらえ方 スポーツの価値について考え、理解する。 予習：自身が行ってきたスポーツからどのようなことが得られたかについて、論議できるように準備をする。 復習：他の学生が述べたスポーツの価値について自身の考えと比較検討を行う。
第2回	現代社会とスポーツ 現代社会におけるスポーツの役割について理解する。 予習：現代社会におけるスポーツの役割について調べておく。 復習：現代社会におけるスポーツの役割について説明できる。
第3回	運動生理学とスポーツ 運動生理学の考え方 運動生理学についての理解 予習：運動生理学について調べておく。 復習：授業内での学習をノートに整理する。
第4回	運動生理学とスポーツ　運動生理学を活かした健康・体力づくり 体力についての理解 予習：体力の定義について調べておく。 復習：授業内での学習をノートに整理する。
第5回	球技の理論と実技　基本技術の習得 バスケットボール競技を通じて、基本技術の習得を行う。 予習：バスケットボール競技について調べる。 復習：バスケットボール競技の基本技術について説明できる。
第6回	球技の理論と実技　基本技術の習得と組み合わせ バスケットボール競技を通じて、基本技術の習得を行う。 予習：バスケットボール競技の基本技術の映像などを見る。 復習：バスケットボール競技の基本技術について説明できる。
第7回	球技の理論と実技　ゲーム運営の基本 コミュニケーションをとり、ゲーム運営を行う。 予習：ルールについて調べる。 復習：ゲームの内容について振り返る。
第8回	球技の理論と実技　ゲーム運営 コミュニケーションをとり、ゲーム運営を行う。 予習：ルールについて調べる。 復習：ゲームの内容について振り返る。
第9回	球技の理論と実技　ゲーム運営と評価 コミュニケーションをとり、ゲームの内容を改善するための方法を考え、チームで修正を行う。 予習：以前に行ったゲームについて振り返る。 復習：修正した内容が適切であったか考える。
第10回	球技の理論と実技　評価の活用とゲーム運営 コミュニケーションをとり、ゲームの内容を改善するための方法を考え、チームで修正を行う。 予習：以前に行ったゲームについて振り返る。 復習：修正した内容が適切であったか考える。
第11回	栄養とスポーツ　栄養の考え方 栄養とスポーツとの関係について理解する。 予習：栄養の基礎知識を調べる 復習：スポーツとの関連性について説明できる。

第12回	栄養とスポーツ　栄養を活かした健康・体力づくり 栄養の重要性について理解する。 予習：栄養の基礎知識を調べる。健康・体力づくりには、栄養が重要だということを理解する。 復習：スポーツとの関連性について説明できる。
第13回	医学とスポーツ　人体の基礎 スポーツ医学の基礎を理解する。 予習：スポーツ医学の基礎知識を調べる。スポーツによって起こりうる怪我について調べる。 復習：授業内容をノートに整理する。
第14回	医学とスポーツ　医学知識を活かした健康・体力づくり スポーツ医学の基礎を理解する。 予習：スポーツ医学の基礎知識を調べる。 復習：授業内容をノートに整理する。

成績評価方法・基準	対面授業ができた場合：実技試験（30%）、授業における小レポート（50%） 実技への取り組みとチームワークを高めるためのコミュニケーション・リーダーシップ能力（20%） オンライン授業の場合：各授業における小レポート（50%）、運動実践での取り組み（50%） 小レポートにおいては、基礎知識が理解されているかを主に評価し、実技においては、周囲の状況を的確に捉え、コミュニケーションがとれているか、またチームワークを高めるための行動がとれているのかを評価の対象とする。 また授業のフィードバックに関しては、Google class room を用いて行います。

参考書	
その他	対面授業ができるようであれば、実技を実施し、できないようであれば、各自で行う運動実践に切り替えて授業を行います。 授業に関する質問等は　moriya@edogawa-u.ac.jp でお願いします。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	第一勧業銀行、富士通にて、女子バスケットボールの日本リーグで選手としてプレイした経験を全ての授業で活用する。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	グループワーク／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1)／こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	守屋　志保(D-0402)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2021年度	科目名	体育				
学期※2	2021年度後期			学校区分	大学		
科目群	こ2群			区分（授業形態）	週間授業		
副題							
授業の概要	感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に気づかせ、それを指導するための技術を学ぶ。						
到達目標	児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとしており、こどもの成長過程を見据え、健全な成長を導くために必要な技術を身につけることを目標とする。						

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	ガイダンス 後期授業の内容に関する説明をする。
第2回	自身の身体への認識を深める①　人体の特性を体験的に知る 予習：自身の幼児期からの運動経験について振り返りノートにメモする。（100分） 復讐：授業を聞いて、再度、細かく自身の運動経験から得たことについて考える。（100分）
第3回	自身の身体への認識を深める②　心と体の関係を体験的に知る 予習：自身の体と心のコンディションについて表を作る。（100分） 復讐：授業を聞いて、体と心が関係していることを確かめ、自分の特徴について説明できるようにする。（100分）
第4回	身体の発育発達①　幼児及び児童を中心とした身体の発達の理解 予習：幼児及び児童の身体の発達について調べる。（100分） 復讐：幼児及び児童の身体の発達について説明できる。（100分）
第5回	身体の発育発達②　生活習慣及び心の発達（情動知能を含む）の影響 予習：心の発達について調べる。（100分） 復讐：授業の内容と自身の心の発達に関して比較し、説明できる。（100分）
第6回	運動技能の獲得過程について①　運動技能の獲得理解 予習：運動技能の獲得過程について調べる。（100分） 復讐：運動技能の獲得過程について説明できる。（100分）
第7回	運動技能の獲得過程について②　運動技能獲得と心（情動知能を含む）の関係 予習：運動技能の獲得過程と心の発達との関係を調べる。（100分） 復讐：授業の内容と自身の運動技能の獲得過程を振り返り説明できる。（100分）
第8回	球技系の発育発達に応じた指導法①　基本技能の練習と振り返り 予習：興味のある球技についての基本技能について調べる。（100分） 復讐：授業の復讐をする。（100分）
第9回	球技系の発育発達に応じた指導法②　ボールを持たない動きとその理解 予習：球技についてボールを持たない動きとはどのようなものかを調べる。（100分） 復讐：映像などで確認して、説明できる（100分）
第10回	球技系の発育発達に応じた指導法③　ドリルゲームとタスクゲームの実践 予習：グループ戦術などについて調べる。（100分） 復讐：授業の内容を映像などで確認する。（100分）
第11回	球技系の発育発達に応じた指導法④　ゲームの進め方の理解 予習：チーム戦術などについて調べる。（100分） 復讐：授業の内容を映像などで確認する。（100分）
第12回	体育の指導案作成①　映像記録で学ぶ指導技術 予習：実際に個人技術の指導案を作成する。（100分） 復讐：振り返り、改善点を説明できる。（100分）
第13回	体育の指導案作成②　子どもへの言葉かけ（情動知能の発達）に留意した指導案の作成 予習：グループ指導の指導案を作成する。（100分） 復讐：映像で振り返り、改善点を説明できる。（100分）
第14回	模擬指導　子どもの身体発達に留意した指導の実践 予習：指導案の作成。（100分） 復讐：映像で振り返り、改善点を説明できる。（100分）

成績評価方法・基準	対面授業ができた場合：実習（30%）、授業におけるレポート（50%） 平常点（20%） オンライン授業の場合：各授業におけるレポート（70%）、指導計画の内容（30%） レポートにおいては、基礎知識が理解されているかを主に評価し、実習においては、指導計画の内容と実践内容を評価します。 また授業のフィードバックに関しては、Google class room を用いて行います。

参考書	
その他	授業に関する質問は、moriya@edogawa-u.ac.jp でお願いします。
参考URL	

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	第一勧業銀行、富士通にて、女子バスケットボールの日本リーグで選手としてプレイした経験を全ての授業に活用する。 <実務経験のある教員等>
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート／グループワーク／実習、フィールドワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)／メディアコミュニケーション学部(2)／メディアコミュニケーション学部(6)／こどもコミュニケーション学科(1)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。